



蘭使日本紀行

十

ル3  
1138  
10





ル3  
1138  
10



二二八

地圖ヲ製セント謀ルナリ。假令阿蘭人地圖ヲ有  
 スルモ。唯陸路ヲ記スルノミニテ。海路ヲ記スル  
 ニアラサルハシ。又カストレコトモ此ノ如キ  
 圖ハ所持セサルハシ。然レハ長崎ヨリノ一圖ニ  
 韃靼ヲ記スルモ。必ラス陸路圖ナルヘク。故ニ海  
 岸ヲ記セサルハシ。歐羅巴人未タ曾テ渡航セシ  
 者アルヲヲ聽カサルナリ。  
 マニケベ又問テ曰ク。阿蘭人ハ葡人ト同一佛ヲ  
 信スルキリスト宗ニアラスヤ。如何ナル祭月ヲ  
 奉スルヤ。十字架ニ上リタル日ニアラスヤ。葡國



ニハ葡僧ヲ容レサルマ。葡人ハ蘭人信スル所ニ  
 於テ何等ノ差別アルマ。  
 此問題ニ答フル所左ノ如シ。蘭人ハ三神ヲ信ス  
 是凡ソ六千年前ニ於テ世界及ヒ世上ノ萬物ヲ  
 造爲シ。今尚之ヲ保存シ。守護スル所ナリ。七日毎  
 ニ一日休業シ。公然ト寺ニ詣スルノ外別ニ祭日  
 ナシ。或ハ彼此ニ羅瑪ヲ引ク者アルニ唯竊カニ  
 之ヲ信スルノミ。故ニ或ハ裁判官ノ登覺スル所  
 トナルアリ。是新羅瑪教ト蘭人ノ奉スル所トニ  
 於テ大差アル所以ナリ。但シ我輩幼年ヨリ之ヲ

學ヒタルニ非サレハ唯臆ニ固信スルヲ以テ足  
 レリトスルノミニテ詳悉ヲ知ラス。  
 筑後殿問テ曰ク。汝等年々伯帯比垂ヨリ出帆シ  
 エス。ポリトサンクトヨリ。マニルハニ往復スル  
 ハ如何ナル目的ナルマ。曾テ此濱ニテ西班牙船  
 ヲ奪タルマ。海戦ノ状ハ如何ナルマ。小船ヲ以テ  
 大船ヲ制シ得ルマ。船上ニ未ルノ彈丸ヲ避クル  
 ニ足ルヘキ防具アルマ。劍鉤網破裂彈毒砲短銃  
 甲冑ハ何等ノ用アルマ。  
 シカーブ答。印土領事ノマニルハニ往復セシム



ルハ年々南海ヲ経テ之ニ来ルノ西班牙船ヲ襲  
フ爲ナリ。未タ之ヲ缺クナシ。唯一二年前ニ一  
艘ヲ打沉メシコアルノミ。又海戦ノ状ハ左ノ如  
シ。双方敵艦ニ逢フ中ハ互ニ其艦ヲ覘フ。一艦風  
上ニ在レハ横ニ一登ス。其弾艦内ニ落ツレハ一  
隊ノ兵劍ヲ提ヘ鉤網ヲ投掛ケ毒弩小銃斧以テ  
敵ヲ斃ス。固ヨリ散戦ニノ正戦ニアラス。若シ敵  
彈我艦ニ中レハ我之ヲ避ケ逃ルニ及ハスシテ  
敵兵忽チ我船中ニ入ルナリ。又小船固ヨリ大艦  
ヲ制スルニ難シ。然レモ小船ハ運轉ニ便ナルヲ

三〇

以テ多ク暗夜ニ衆シテ竊カニ旗ヲ秘シ風上ニ  
在テ不意ニ之ヲ襲ハ多人勇戦スル中ハ大艦復  
タ保全ヲ期シ難シ。若シ夫レ彈丸銃棒舟鉤相交  
ルニ方テハ貨物ヲ保護スルノ暇ナシ。飛彈散乱  
スルニ方テハ百物皆粉碎シ免カレス。衆人亦共  
ニ摧死スルナリ。凡ソ甲冑及ヒ他ノ銃器ハ海軍  
ニハ用ヲ爲サス。是唯陸戦ニ在テ用アルノミ。  
筑後殿更ニ問テ曰ク阿蘭人ハ如何シテクイラ  
シク城ヲ奪掠セシヤ。城中ニハ大砲ノ備アリ  
シヤ。其軍備如何。又先年日本ニ来リタル英人買

タリシ城ヲ  
奪フニ策アリ



易今尚他國ト交高スルヤ。此件如何思惟スルヤ。バレーヘルド答。我輩二人クイラングニ至リタルヲナシ。然レモ聞ク所ニ據ルニ其城固ヨリ大砲ヲ備ヘリ。阿蘭人地下道ヲ穿テ外城ノ濠ニ近接シ之ヨリハルフコルトウエン及ヒ砲ヲ打撃シタルハ城兵恐怖シ終ニ城ヲ陷レタリ是ニ於テ本城モ防拒スルノ力ナシ。城兵悉ク竄走セリ。此城西班牙兵ノ築ク所ニテ西班牙人之ヲ護リタルナリ。英人今尚大ニ貿易ヲ印土諸地ニ施行ス。則チシユラテコルマシゲルマカリツサレ

更ニ向テ

及ビバングンナリ。又佛蘭西。西班牙。葡萄牙。獨逸。及ヒ阿蘭ト交高ス。蘭人ト同宗教ヲ奉ス。此中或ハ羅馬法ヲ奉スル者アリ。此時意外ノ尋問アリテ大ニ苦慮セリ。筑後殿色ヲ変シ。獨逸。謁官藤左エ門ヲシテ問ハシハ曰ク。ガレスケンズ船内ノ者。日本漢夫ノ家ニテ。江戸ヨリ數里ノ所ニテ。一佛經ヲ諸人ニ示セリト。是粗暴ノ處置ナリ。書中何等ノ事ヲ記シタル者ナルヤ。又何故ニ之ヲ示セシヤ。詳カニ上申スヘシ。若シ速カニ實事ヲ具上セサレハ。日本裁判官榜



問ヲ加フル。日本僧ニ於テ屢施シタルカ如キ  
苛責ヲ以テスヘシ。

シカリプ及ベレレヘルド一齊ニ曰ク此佛經  
ノ事ハ我輩少シモ知ラサル所ナリ若シ舟士中  
ニ或ハ此ノ如キ所業ノ者アラハ船則ニ隨テ其  
罪ヲ罰シ他人ノ模範ト爲スヘキナリ

藤左工門聲ヲ初マシ此答言ヲ挫折シテ曰ク其  
件經中ニハ聖語及ヒ聖諭ヲ滿テタリ假令汝等  
説明セントスルモ豈ニ罪ヲ遁ルヘケンヤ抑モ  
益ナキナリト筑後殿進テ曰ク其實ヲ明言スヘ

シ若シ日本政官ヲ欺ク片ハ其罪輕カラズ之ヲ購  
フニ重科ヲ以テスヘキナリシカリプ及ヒベレ  
レヘルド尚前言ヲ重ヌ而ノ思ラク聊カニテ  
モ實事ヲ隱匿シテ其發覺スルニ方テハ残酷ノ  
處置ニ逢ヒ死ニ陥ルヘシト

此ノ如ク糾問スルノ後裁判官退去スシカリ  
及ヒバレレヘルドハ再ヒ大ニ空濶ナル地ニ  
扣ヒ居タル前ノ舟士ノ所ニ来ルニ屋根アル假  
屋ナリ觀者四方ニ多ク各種ノ人物着坐ス其中  
ニ婦人ヲ交ユ小兒ヲ伴フアリ鉢ニ食物ヲ盛り



敗クアリ。婦人ハ日本羽織ヲ服ス。大ニ後ニ張ル。胸前ハ左右折返リ開テ乳房ヲ露裸ス。腹ニハ潤キ帯ヲ纏フ。花彩散乱ス。袖潤ク右臂ノ下ニ裂隙アリ。下着ノ袖ヲ見ル。是左ノ袖ノ上ニ巻キ掛ル所ナリ。髪ハ頭上ニ紛乱シテ後邊ニ鬘アリ。粧飾セル剪綴ヲ着ク。其後尋常婦人ヲ見ルニ多クハ三本ノ四角柱アル。菰間セル宇下ニ坐シ。戸前ニ在テ食物ヲ盛タル鉢ヲ膝上ニ置ク。雙方ニ大ナル盃アリ。上口蓋閉ス。其内ニ食物及ビ飲料ヲ充ツ。通行人ニ勸メ賣リ。且ツ廉價ニテ淫ヲ販クナ

上ニ記スル舟士等ハ。船主及ビ下高官ノ裁判官ニ向テノ應接如何。又結果如何ヲ大ニ配慮セリ。而シテ此二人ハ一言ヲ答スル毎ニ注意スルヲ以テ大ニ多時ヲ費ヤシ。第二回ノ糾問ノ爲ニハ左エ門濶所ノ一隅ニアル一小戸ヲ開キ二人ヲ呼ビ入レタリ。舟士等謂ラク。無慈悲ナル刑罰所ニ趣クノ道ナルヘシトシカ。トプ及ビトベトトヘルト。亦同憾ニテ死ヲ待ツノ目ナシト想像ス。何トナレハ二人之ニ入ルヤ。直チニ其戸ヲ緊閉シ



テ一。小室ニ入りタリ。茲ニハ三大桶アリ。水ヲ盈  
 テリ。日本人此桶ニテ残酷ニ苛責セルハ。曾テ見  
 ル所ナリ。其呵責ノ法ハ。背ヲ地上ニ置キ。四肢ヲ  
 緊縛シ。一身ニ水ヲ注ク。更ニ胸腹ヲ棒ニテ緊窄  
 スルナリ。則テ訊官藤左エ門及ヒマニケベ堂上  
 ニアリ。ハ左エ門日本酒白飯等ヲ供セルヲ以テ  
 怖怯ノ念氷解シテ。夜ニ入り旅舎ニ歸レリ。  
 翌日再問アリ。シカープ及ヒベールヘルド。筑  
 後殿ニ對ス。則テ前日紀問スル事件ヲ再答セシ  
 ム。前回ノ答ト比較シテ。少差異ナカラシム。然レ

ニ前問ノ外。更ニ別事ニ問ヒ及フナリ。  
 曰ク日本裁官ハ。決シテ汝等カ韃靼圖ヲ所持セ  
 サルト言フヲ信セヌ。汝之ヲ知ラサルモ。舟中  
 必ラス之ヲ所持スル者アラン。凡ソ長崎ニ至ル  
 者一船タリ。地圖ヲ所持セスシテ着岸スル者  
 アランマ。此要用ナル補助ナクハ。航海シ能ハサ  
 ルヘシ。此地圖ニ據ラスノ。汝等何ニ由テ韃靼ニ  
 至ルヲ得ヘケンヤ。シカープ答フル所左ノ如  
 シ。  
 貴卿ヨ昨日述ル所船内ニ韃靼圖ヲ所持セサル



一信實ニメ偽言ニアラス舟士中ニモ之ヲ所有  
 スル者ナシ抑モ長崎ハ久シク航海スル所ナレ  
 ハ自ラ公然タル地圖ノアルアリ然レモ韃靼ハ  
 改羅人未タ曾テ至リシ者ナキヲ以テ其海岸ノ  
 狀ヲ圖スルヲ能ハス然リト虽ガレスケン中  
 一ハ羅鍼ヲ備ヘリ是我ヲ助クルノ要器ナリ先  
 ツ一定地ヲ記シ日輪ノ高度北極ノ位度ヲ熟知  
 スレハ羅鍼ヲ用ヒテ始テ出帆シタル地ニ歸ル  
 一ヲ得ル者ナリ抑我輩伯蒂比亞領事ノ命ヲ受  
 ケ三十九度以外ニ達セハ日本ノ極北端ニ航ス

ルヲ知ル又地球儀ニ據テ経緯ヲ知り得ルナリ  
 此二物ハ船中ニ所有セリ故ニ北西四十五度ニ  
 至レハ韃靼ヲ求ムヘシ地圖ハ各自己ノ經歷ス  
 ル所ヲ以テ製シ得ヘキナリ  
 シカ一フ更ニ添言シテ曰ク貴卿地球儀ヲ所有  
 セハ請フ之ヲ示セヨ我試ニ何ノ處カ韃靼ナル  
 ヤ又ホレイサンダ河ハ何ニアルヤ其岸ニ沿テ  
 盛ナル互市アル所又我航過シタル所ヲ明示セ  
 ン筑後殿則チ阿蘭製ノ地球儀ヲ示ス是徃日エ  
 ルセラクヨリ献スル所ナリ之ヲ一目セハ必ラ



スシモ蘭人ノ指示ヲ待サルヘキナリ。則チ遠所ヨリ地球儀ヲ見テ。則チ曰ク。何故ニ汝等昨日裁判官ニ鞆鞆圖ヲ缺クヲ以テ地球儀ニ憑ルトノ事ヲ告ケサリシヤ。シカレバ答フ。諸紀問ノ件ヲ答フノミ。且ツ地球儀ハ地圖ナキヲ証スルノ一具トナルヘシトハ考ヒ及ハサリシナリ。

藤左エ門筑後殿ノ命ニテ再ヒ問フ。汝等何故ニ日本海岸ヲ往復シ。屢小銃大砲ヲ打放シタルヤ。是大ニ將軍ノ憤ル所ナリ。此件ハ汝ノ詳カニ知ル所ナレハ實事ヲ告クヘシ。南部ニ於テ幾登セ

ベール心日本  
地獄ス

レヤ。

バーレーヘルド答。是或ハ阿蘭人ヲ恣ム者ノ説許ニテ我輩ヲ誣ルナラン。然レモ今穩カニ日本海岸ニテ僅カニ一登シタルノ理申ヲ述フヘシ。南部地方ニテ其地長官ノ許可ヲ得テ停泊セリ。日本人多勢船内ニ入り来リ。終ニ房ニ入り。小銃及ヒ火器アルヲ見テ其火繩ナキヲ訝リ。好奇ノ念ヨリ頻ニ雞冠ヲ上下シ終ニ請テ止マヌ。為ニ空砲ヲ十四発セリ。

藤左エ門再ヒ曰ク。小銃ノ製如何。短銃ノ状如何。



ナルヤヲ未タ曾テ知ラサルノ我國人固ヨリ放  
射ノ法ヲ解セヌ之ヲ予ニスルモ發スルヲ悟  
ラサルハシ汝等其方法ヲ指揮シ幾度ク之ヲ教  
ヘ日本人ノ發スル所ナリト言フト虽愚鈍ノ日  
本人焉ソ容易ニ之ヲ領悟スルヲ得ンヤ是ニ  
於テシカレバ曰ク小銃ヲ放ツハ小技ノミ故ニ  
我輩一發シテ後之ヲ其人ノ手ニ渡セリ又短銃  
ハ鋼鑊ト燧石トノ激打ニ由テ火ヲ發シ火則チ  
彈藥ニ傳フ藤左工門曰ク此ノ如キ短銃打放ハ  
阿蘭船平戸港内停泊中屢爲ス所ナリ是ニ於テ

筑後殿一ノ蘭製ノ袖銃ヲ示シ之ヲ發セシム藤  
左工門曰ク小銃打法亦此ノ如シ但シ稍長キノ  
ミトシカレバ語ヲ繼テ曰ク日本人假令習ハサ  
ルモ蘭銃ヲ放ツ容易ナルヲ以テ怪シムニ足ラ  
ヌ其法タルヤ唯前指ニテ引金ヲ起シ又其機ヲ  
落スノミ此ノ如キヲハ今我輩一ノ日本人ト相  
對セハ此席上ニテモ爲シ得ヘキナリ此時裁判  
官侍坐スル者筑後殿ニ低語ス此人蘭人ヲ罪テ  
ントスルニ似タリ  
又マニケバ問フ汝輩囚人ノ身ヲ以テ何故小銃



ヲ帶フルヤ。日本將軍ハ海岸ニ漂着スル者アレ  
 ハ常ニ大ニ之ヲ撫恤スルヲ知ラサルヤ。何故  
 蘭人ナルトテ早ク告知セサリシヤ。囚人中ニ曾テ  
 日本ニ至リシ者一人モナキヤ。汝等ユルセラク  
 オールフルトワールル。クバツケル。及ヒカロ  
 ントラ知ラスヤ。カロニハ復タ蘭ヨリ印土ニ航行  
 セサルマ。  
 マニケベルノ問題ニシカー。答フ。我輩困厄ニ遇  
 へ。僅カニ之ヲ凌テ日本ニ漂到シ。仁恤ノ處置ヲ  
 願フ者ナレハ。如何ソ。貴意ニ悼リ。詐欺ノ言ヲ陳

三

シ。自ラ福害ヲ招クトテ爲ンヤ。凡ソ外域ニ至ル  
 者諸事謹慎ナルヲ要ス。況ンヤ。即今此地ヲ遁走  
 スルノ道ナシ。若シ夫レ八名ノ舟士等。或ハ一遁  
 ラ開テ本船ニ帰ラントスルモ。無數ノ番卒アレ  
 ハ。忽チ之ヲ捕獲ス。キナリ。又小銃ヲ帶スルハ  
 余一人ノミ。絶テ他ニ之ヲ所持スル者ナシ。況ン  
 ヤ。余輩日本將軍親睦ヲ結フノ國人ナリ。其無罪  
 タル明ニ白クナレハ。速クニ縦シテ本國ニ帰ラ  
 シメン。トテ冀フノミ。且ツ鞆鞆ニ赴カントスル  
 海上。日本ノ北部ニ於テ同伴船カストレコムヲ



索ハル爲ニ信号炮ヲ一発シタルヲ以テ誣言  
心ヲ抱クト言ンヤ。我輩此事ヲ憂慮シ。苦心ニ耐  
ヘヌ。嗚呼此ノ如キ憂苦アラヒヨリハ。寧ロ洋中  
ニ在テ饑渴ノ爲ニ死スルカ。或ハ激浪暴風ノ爲  
ニ船ト共ニ覆没シテ海底ニ沉淪スルヲ優レリ  
トス。今僥倖ニメ一命ヲ全フシ。却テ日本將軍ノ  
疑ヲ蒙リ。斯ノ極ニ至ルヲ實ニ素懐ニアラス。又  
阿蘭人タルヲハ再三再四告ケタルニ。哀哉我輩  
未タ此地ニ来リ此國語ヲ解スル者ナキヲ以テ  
日本人ノ耳ニ十分ナラサリシナリ。余嘗テ三年

前二回平戸ニ来リタルキ。フランスカロンニ隨  
テ。伯帯比亞ニ赴キタリ。エルヘラク。及ヒオトフ  
ルトワトトルハ。近少時前伯帯比亞ニテ面會セ  
リ。クークバツケルハ。方今阿蘭國ニテ妻ヲ迎ヘ  
リ。カロンニハ尚今伯帯比亞ニ滞在スルヤ如何ヲ  
詳ニセス。  
此時筑後殿又曰ク。彼等囚人ヲシテ手書記名セ  
シムハシ。決シテ葡僧ヲ船載シテ日本ニ送ル  
勿ルハシ。若シ此ノ如キヲアラハ將軍ノ意ニ任  
セテ。日本裁判ヲ加フヘシ。此誓約書ハ凡ソ阿蘭



人我國ニ来ル者皆之ヲ領スヘキアリ。又長崎在  
留ノ阿蘭商會領事ハ。其身及ヒ出島ニアル東印  
土商社ノ諸貨物ヲ質トナシ。之ヲ保証スヘシ。  
船主シカーゴ曰ク。自ラ熟考シ。又他ノ同囚人ト  
議スルニ。皆之ヲ領養セリ。ブレステンス。及ヒカ  
ストレコムハ。警敵ナル羅馬僧ヲ。絶テ日本ニ船  
送スルノ理ナシ。誰カ敢テ貨物ト生命トヲ賭ニ  
シ。危險ヲ冒シ羅馬僧ヲ誘スルヲアランヤ。故ニ  
長崎ノ領事モ異議ナキハ。固信スル所ナリ。聊カ  
懸念スヘキニアラスト。

之ヲ命シ且ツ其領養スルヲ聞クノ後。筑後殿席  
ヲ立テ退ク。二三歩堂隅ニ着坐シ。前ニ述ル手  
記ノ案文ヲ造ル。此時シカーゴ及ヒベールヘ  
ルドニ。長崎エルセラク。及ヒオートルトワート  
ルヨリ寄スルノ書ヲ渡セリ。九月十日附ナリ。訳  
官藤左エ門ヲシテ和文ニ訳セシメ。之ヲ執政ニ  
呈ス。此事容易ナラサリシ。則テ藤左エ門ハ文中  
ノ意ヲ解スルニ苦シム。此訳官和蘭語ニハ大ニ  
不熟ナレハナリ。此書ハ誰ニ屬スルヤヲ問フニ  
多時ヲ費ヤセリ。日本長官ハ阿蘭囚人ハ合衆阿



蘭東印土高會ニ属スルヤヲ疑ハリ故ニ筑後殿  
 ヲリ藤左エ門ニ嚴命シテ精密且反復シテ此書  
 誰ニ属スルヤヲ問フ度毎ニ答テ曰ク船主シカ  
 ープ下高官ベレーヘルド及ヒ他ノ囚人ニ寄  
 スル所ナリ然ルニ藤左エ門又曰クエルセラク  
 及ヒオールフルトワトルハ書中ニ囚人ヨリ日  
 本執政ニ何寺ノ事ヲ語リタルヤヲ記セサルヤ  
 シカープ及ベレーヘルト証シテ曰ク此書異  
 事ヲ記セス唯我輩囚人トナリ居ル者ヲ長崎奉  
 行ヨリ傳聞シタルヲ阿蘭船五艘出島ニ着シタ

ル事利益ヲ得ンヲ望ム事ニ堪ヘ忍テ日本教  
 官ノ明察ヲ謹テ待ツヘシトノ教諭ノ事ノミナ  
 リ

筑後殿  
 八思

藤左エ門其文意ヲ翻訳シ之ヲ筑後殿ニ呈ス又  
 藤左エ門ニ前ノ手記ノ案文ヲ日本語ヨリ蘭文  
 ニ訳セシメテ之ニ蘭人ヲシテ記名セシム筑後  
 殿一秘書記ニシカープ及ヒベレーヘルドノ  
 書ヲ渡ス明朝此書ヲ執政ニ呈シ蘭人ヲ速カニ  
 放解セントス然リト虽果ノ必ラス速カニ放解  
 セラルトヲ確言スルニアラサルナリ此ノ如キ



總命アルヲ以テ囚人等ハ筑後殿ノ秘書記ニ厚  
謝セリ。是ニ於テシカレバ及ヒベレレハド  
ハ。記官藤左エ門及ヒマニケベト共ニ旅舎ニ退  
ケリ。

此兩人反復シテ前件ヲ尋問ス。是ハ日本  
固有ノ押柄ナルニ由リ。一ニハ苦々シキ量見  
ルニ由ル所ナリ。此兩事ノ爲ニ大ニ人ヲ困苦  
シタリ。唯ニ阿蘭人ヲ窘迫スルヲノミ勉ム  
ニ似タリ。或ハ曰ク汝ノ述フル所執政或ハ筑後  
殿ノ問ヲ所ニ當ラスト。又曰ク言辭冗長ニ通ル

ト。此ノ如キ權高ナル容色ヲ為スモ敢テ之ヲ制  
スル者ナシシカレバ及ヒベレレハド自ラ其  
謬誤スル所何ノ邊ニアルヤヲ知ラス。故ニ之ヲ  
言ニ改ムルニ由ラシ。何ノ邊ニカ謬誤アリヤト  
審問スレハ。藤左エ門及ヒマニケベ敢テ之ヲ明  
示セス。但シ兩人共ニ重耳ナルヲ以テ互ニ相異  
ナルヲ言フアリ。或ハ答ヘスシテ退去スル  
トアリ。是ニ於テ阿蘭囚人大ニ困苦セリ。  
筑後殿ニ向テ。秘書記井上筑後守様ニ托シシカ  
レバ及ヒベレレハドヨリ。一書ヲ呈ス。其文



ニ曰ク、ヘンテリキコルネリスゾーシカリポ  
及ウイルヘムベールヘルド<sup>レ</sup>他ノ阿蘭囚人ト  
共ニ陳述ス。ブレステンス船ヨリ放砲シタルハ  
唯阿蘭ノ國法ニ倣フ所ニテ、日本近岸ニテハ此  
ノ如キヲ許サ、ルヲ固ヨリ知ラサルニ出ル所  
ナリ。試察ヲ願フノミ。又伯帯比亞ヲ出帆シタル  
ハ韃靼地方ヲ探ルカ爲ニシテ、決シテ葡萄牙或  
ハ西班牙僧ヲ日本ニ送ルノ爲ニアラス。若シ此  
言ニ於テ詐欺アラハ、日本將軍ヨリ何様ナル罪  
料ニ處セラルモ、敢ニ辞スル所ナク、又敢テ怨ムヘ  
キ所ナシ。謹テ日本裁官ノ決リ望ミ命ヲ待ツト。  
此書ヲ筑後殿ニ捧ケタレト。敢テ報ヲ得ス。唯ニ  
日ノ後、記士吉兵衛ハ左エ門及ヒ變宗僧シヨリ  
アシラ、荷蘭人ノ旅舎ニ送り、問テ曰ク、ブレステ  
ンス地圖ヲ所持セサルヤ。南部港内ニ放銃セサ  
リシヤ。バールヘルド答フ、瓜哇テルナリテン  
臺灣及ヒ日本海岸ノ圖ハ、之ヲ有セリ。然レトモ、韃  
靼圖ハ所持セス。又南部港ニテ日本人多數船内  
ニ訪ヒ来リタルハ、數回小銃ヲ放テリ。是蓋シ需  
ニ應シタルナリ。又港外ニテ一発シタルハ、見失



フタルカストレコムヲ索ムルノ信号ナリ。吉兵  
エ曰ク。噫阿蘭人誤マテリ。曾ラ汝ノ辞ヲ訊シテ  
藤左工門及ヒマニケベヨリ。執政ニ上申シタル  
ニハ。汝輩常ニ地圖ヲ有セスシテ航行ス。又南部  
港ノ内外ニテ放銃シタルヲナシト。是日本執政  
ノ疑惑シ。汝ノ言ヲ詐欺ナシトセサル所以ナリ。  
シカリア。及ヒバレーヘルト。是ニ於テ藤左工  
門及ヒマニケベヲ。和蘭人ヨリ別居セシメタル  
所以ヲ始テ悟レリ。此兩人ヨリ虚言ヲ執政ニ告  
ケタルヲ以テ。謹慎セシメタルナリ。吉兵工。八左

工門及ヒシヨリアンハ。訊官ノ謬誤ヲ筑後殿ニ  
辦解スルニ惱ミ。三人相議シテ以テ和蘭人ヲ救  
フニ苦心セリ。  
實意ニ出テ翌日復々和蘭人旅舎ニ来レリ。則チ  
マニケベ。殊ニ藤左工門。和蘭人ノ言ヲ誤訊シ。執政  
ニ言上シタルヲ明白ナルヲ以テ。兩人ヲ罰セカ  
ルヲ得ストス。然レモマニケベハ之ヲ排シ。藤左  
工門ハ上官タルヲ以テ。闕口セサルヲ得ストス。  
藤左工門此事ヲ聞キ。和蘭人ニ向テ誤訊シタル  
ヲナシ。故ニ自ラ言訊スルニ及ハスト。固執ス。且



筑後殿ニハ一語一字丁寧ニ託シタルヲ述フ  
ヘシ。筑後殿ヨリ他ノ執政ニ傳フヘキナリ。然レ  
モ藤左エ門ノ容狼自ラ罪アリト知ルニ似タリ。  
故ニシカカーパ請テ曰ク。自後問答ニ尤ニ注意ス  
ル所アリテ。日本官吏ヲシテ事理ヲ領解セシメ  
又蘭人ヲシテ及復シテ同一事ヲ述ルノ勞ヲ省  
カシメントヲ欲スト。諾シテ退ケリ。  
其後訳官ハ左エ門書ヲ寄テ曰ク。將軍ノ受母急  
病ニ罹リ。辱ニ就ケリ。故ニ殿中諸裁判事件休止  
シテ。其少シク怠ルヲ待ツ。荷蘭人長崎旅行ノ許

可ヲ請フモ之ヲ待タサルヲ得スト。  
翌日マニケベシヨ一フシ。吉兵エハ左エ門及ヒ  
旅舎主人。多數ノ日本人ヲ伴テ蘭囚人アルノ室  
ニ入り来ル。是唯好奇ノ念ヨリスルノミ。此輩各互  
ニ各種ノ談話ヲ為ス。然レモ荷蘭人ニハ日本人  
ノ言ヲ所ヲ解マルヲ得ス。唯時々エルセラク。及  
ヒオ一フルト一トルノ語ヲ聞クノミ。後ニ及テ  
マニケベシカカーパニ告テ曰ク。此日本人等ハ近  
頃長崎ヨリ来リタルナリ。エルセラク及ヒオ一  
フルト一トル諸君及ヒ他蘭人皆安全ナリト



マニケバ他話ニ及ハスシカレバ囚人ノ事ヲ問  
 フニ。輕蔑シテ顧ミス。且答ヲ辞ス。  
 自後見物人時々群来ヌ。一日少年ヤコブデバ  
 ラ。旅舎主人ノ子ノ案内ニテ筑後殿ノ邸ニ招カ  
 ル。日本貴女ハ好奇ノ念ヨリ彼ヲ見ントシ求ム  
 トノ口上ナリ。夜ニ入り帰舎ス。其談ス所ヲ聞ク  
 ニ。一ノ貴女ヲモ見ス。唯筑後殿ノ上秘書記ト獨  
 逸。詎官藤左工門及ヒマニケバラシテ南部港ニ  
 テノ事情ヲ探索セシメリ。放砲スルト幾回ナル  
 ナ。日本人騰ク小銃短銃ヲ放ケ得タルヤト。少年

執政列坐シテ  
 蘭人ニ應答ス

答フ所前同ニ同シ。  
 十月十九日。四人ノ詎官相伴テ阿蘭旅舎ニ来レ  
 リ。藤左工門命シテ十囚人ヲ招キ令シテ曰ク。明  
 日日出前一時。筑後殿ノ邸ニ出ツヘシ。諸執政列  
 席アリテ。再ヒ阿蘭人ノ處置ヲ議スル處ナリ。衆  
 之ヲ羨諾ス。但シ心中竊カニ憶フ何故此ノ如ク  
 早時ニ於ラスルヤ。是從来ナキ所ナリ。則チ期ヲ  
 誤ラヌ出邸ス。詎官四人。変宗僧シヨリヲシテ。旅舎  
 主人父子共ニ邸内ニ在テ待ツ。一時此所非常  
 ニ立派ナル偃息所ナリ。但シ之ヨリ導カレテ尋



常番所ニ出タリ。既ニナ午時ニ及ヘリ。筑後殿ノ  
注意ニテ各人ニ麵包一片。及ヒ日本酒ニ盃ヲ賜  
フ。後裁判所ニ呼ハルイ、ソイテ四ノ人粗ナル  
筈上ニ坐スルヲ見ル。

イ、ソイテ等大ニ憔悴シ。目及ヒ頰陥リ。手蒼  
色苛責ノ為ニ全身瘦削ス。之ヲ一見シテ蘭人驚  
キタリ。何故ニ四人茲ニアルヤノ理由ヲ解セス。  
此輩キリスト徒ナルツ包ニ隠ス。然レモ吉兵エ  
及ヒ八左工門堪可ラサルノ苛責拷問ヲ以テ白  
状セシメリ。執政等綿密ニ神ノ功德ヲ聞カント

ス一人ハ臆セサレモ他ハ答フル所曖昧ナリ。阿  
蘭人其問答ヲ傍聴スルニ大ニ不都合ナルニ耐  
ス。然レモイ、ソイテシノ側ニ立テ又吉兵工及  
ヒ日本人ノ問ハ葡語ヲ以テスルカ故ニ伴テ聞  
カサル如クスレモ實ハ之ヲ能ク領解セリ。  
詐欺ナルイ、ソイテシヨ。汝輩汝ノ神ヲ信スル  
モ此ノ如キ耻辱ヲ蒙ルル片之ヲ免カルヲ得ヤ  
ルヤ。神ハ萬物ヲ造為シ。又之ヲ支配スルヤ。許  
多ノ厄難ヲ救フヲ能ハサルヤ。生活アルノ身体ヲ  
救ハス。唯骨骸ヲ救フヤ。日本將軍ハ神ヲ信セ



レ甲フレシイ  
ラシラ軌  
ス

ナルヲ以テ。汝ト共ニ事ヲ為シ能ハサルヤ。甲イ  
、ソイト答テ曰ク。真神我ヲ導テ世界ノ人ヲ離  
脱セシメントス。然レモ尚之ヲ信スルヲ怠ラス  
苦厄ノ極ニ至レハ之ヲ慰ムルニ足ルナリ。痛苦  
ハ唯肉身ニアルノミ。魂魄ハ天ニ止マルヘシ。痛  
苦ハ生活間ノ一ツ時ノミ。丙其理由ヲ擴張シテ  
曰ク。我輩罪障多キヲ以テ重罰ニ課ス。然レモ魂  
魄ハ関スル所ナシ。魂魄ハ體ヲ脱スレハ天火ニ  
向テ移居ス。耐可ラサルノ苛責ナキニアルス。是ニ於テ久シクシ  
テ清淨且清淨トナルニ及テ天上ノ神聖タルヲ

得ルナリ。此時神ハ其子孫タルヲ以テ。之ヲ棄テ  
ス。之ニ賦與スルニ無限ノ生命ヲ以テス。但シ之  
ニ至ルノ道頗ル難シ。今此身體ハ實ニ將軍ノ為  
ニ苛責セラレモ其威カ神ノ賦與スル所ニ比ス  
ハキニアラス。凡ソ人ノ支配スル所ハ形骸上ニ  
在ルノミ。之ヲ脱スルノ魂魄ハ復々之ヲ如何ト  
モスルヲナキナリ。丁答ヲ結フニ左語ヲ以テス。  
真神ノ外ニ絶テ神聖ナシ。善惡共ニ其意ニ任ス  
ハキハニ。  
日本裁官ハ。羅馬教ヲ解セサルカ為ニ。之ヲ裁ス



ル所以ヲ知ラス。是ニ於テ変宗僧シヨリアンヲ  
呼フ。此人則イ、ソイテン四人ノ傍ニ立チ。之ヲ  
眈眈シ。獐類ナリ。此人曾テイ、ソイテンニ入り  
タルヲアルヲ以テ事ヲ解セリ。喚テ曰クイ、ソ  
イテンヨ汝輩世ヲ惑セリ。汝カ神及ヒ神聖ハ汝  
ニ於テ何ヲ為スヤイ、ソイテンニ非サレハ神  
聖トナリ能ハサルヤイ、ソイテンノ説ヲ信ス  
レハ能ク神聖トナルヲ得ルヤ。汝等天ニ於テ如  
何ナル誓約アルヤ。汝竊カニ諸候ヲ眩惑セント  
スルヤ。世上ノ賤賈ヲ立派ナル寺院ニ閉鎖セン  
ト欲スルヤ。汝輩常ニ歡樂ヲ極メ。日本佛法ヲ滅  
セントス。加之日本人ヲシテ許多ノ血ヲ瀝カシ  
ム。汝等ノ誘導ニ由テ古来ノ佛教阿彌陀釈迦及  
ヒ観音キリストノ為ニ凌辱セラレ。大ニ人心ヲ  
害シタレハナリ。且妄ニ人望ヲ釣ラントテ初メ年  
々輸シ去ル所ノ金若テ噸ナルヲ知ラス。其極日  
本ヲ押領シ。之ヲ自在ニセントスルノ心ヲ抱ク。  
抑モ無神ノ威カ何ノ邊ニ在ルマ。今汝輩ノ不幸  
ナル状ヲ知ラハ何リ之ヲ救ハサルヤ。尚威カア  
リトスルマ。之ヲ救フヲ思ハサルヤ。尚仁惠アリ



ハスルヤ而ノ尚之ヲ神聖ナリト想像スル豈ニ  
馬鹿々々シカラスマ汝輩精神顛倒シタルヲ以  
テ好嗜マル所ニ束縛セラレ徒ニ信神スルノ名  
ニ托シテ世人ニ尊敬セラレントシテ却テ自ラ  
身ヲ苛責スルヲ曉ラサルナリ余再ヒ汝ニ問フ  
真神何故ニ之ヲ救ハサルヤ汝ノ生命ハ神ニ頼  
ラス日本將軍ノ手中ニ在リ今ニ及テ悔悟スル  
ニアラサレハ從前ヨリハ更ニ苛酷ナル拷問ニ  
附スレシ

(三)

フン高尚ナル説ヲ以テ四人ノイソイテシ  
督責シタレハナリ又シヨリアン葡語ヲ述フル  
ハ緩徐迂曲ニシテ蘭文体ニ似タルニ慣タレハ  
ナリシヨリアンノ此説大ニ日本兩執政酒井左  
工門尉様及ヒ松平伊豫様ニ満足セラレタリ殊  
ニ阿彌陀釈迦ヲ説クニ方テ大ニ他ヲ感セシメ  
タリ  
帝ニ日本人ノミナラス凡ソ釈教派ノ人又一ニ  
ノ佛ヲ信スル人ハ絶テ神アルヲ知ラス是現著  
ナル所ナリ則チ自然ノ光明ヨリ神ハ堅要ナリ

釋教  
ヲ知ラス  
ハ  
神



此神ハ天地ヲ造リ出シタル者ナリ故ニ尊敬ス  
ヘキ者タルヲ知ルト虽然レモ其功德ヲ却テ神  
造物ニ帰セリ猶エウアインゲリストノヨアンネ  
ヲ思考スルノ盲人ニ異ナラス神子ノ子ニ對シ  
テ其顔ヲ見テ尚誰カ神ノ子ナリヤト問フカ如  
シ則チ見ル所ノ物ヲ考ヘサルナリ又諸教人  
ハ見ル可ラサルノ神ヲ見ルヘキ者トシ沈黙ヲ  
以テ話スルヲ聞クトス余世界ノ造物主保護者  
及支配者ニ信心尊敬ヲ帰スヘキヲ知ル然レモ  
此ノ如キ显色ニ向テ目ヲ閉チ神ニ向テ耳ヲ塞  
ク猶夢ノ如シ而ノ妄ニ想像ニ任セテ見ルヘキ  
ノ造物ヲ認メテ見ル可ラサル造物主ニ代フ故  
ニ日本人ハ一佛ヲ考フ阿彌陀釈迦觀音及ヒ他  
ノ諸佛ニ十分ナル尊敬ヲ帰スルナリ其根源始  
ヲ他ニ滅スルヲ造物主然レモ此ノ如キノ迷誤ノ因  
テ未ル所抑モ舊シアボステルバラリエス釈教  
派ヲ論スル左ノ如シ其教ヲ説ク誤マレリ不朽  
ナル神ノ神聖ヲ腐朽スヘキ人ノ像ニ同シトヤ  
リ故ニ己レノ心ニ任セテ神ヲ不淨ノ域ニ落セ  
リ神ノ眞實ヲ虚妄ニ変シ無限ノ價直アル造物



主ヨリハ造物ヲ貴トス。眞實ナル神ヲ信セシ  
テ。虚假ナル造物ヲ敬ス。アレキサントルアブハ  
ン。スノ説左ノ如シ。神ノ眞實ヲ保存スルハ神ニ  
奉事スルナリ。造物ヲ造物主ニ代ルハ。實ヲ虚ニ  
変スルナリ。抑モ眞ノ信心ハ。眞神ニ奉事スルニ  
アリ。佛ヲ信スルハ。造物ヲ造物主トスルニテ。實  
ヲ虚ニ変スルナリ。  
人ハ神ヲ見ル能ハサルヲ以テ。其見ルヘキ所ノ  
者ヲ神トスルニ似タリ。之ヲ二重ノ不信心ナリ  
トス。何トナレハ。凡ソ廉直ナル人ノ所業ハ。各事

ヲ其物ニ附スヘキナリ。然ルニ。釈教ニテハ。萬物  
ヲ造為スル者ニ属スヘキ信心ヲ。虚作ナル造物  
ニ帰セリ。是帝ニ神ヲシテ。榮譽ヲ失ハシムルノ  
ミナラス。更ニ其榮譽ヲ轉移シテ。決シテ神トス  
可ラサル者ニ帰シ。神ヲシテ口惜カラシムル者  
ナリ。  
凡氏ヨリ稍モ智アル者ハ。此ノ如キ迷誤ノ想像  
ヲ悟ラサルニアラス。然レモ尚自ラ世好ニ従テ  
唯想像ニ任セテ。神ハ斯クアリ。斯クアラスト假  
定シ。人ハ世務ニ従事スルヲ以テ足レリトスル



ノミ

絶テ一人モ自然ノ光明ニ由テ神ヲ求メ歡樂ヲ  
得ントシ。真實ニ神ニ熟心スル者ナシ。此ノ如キハ  
有名ナル羅馬及ヒ希臘ノ蝨吞ニニスル人はナ  
リ。海陸ヲ横行シテ飽クナク。美味ヲ貪ラント  
スル者ナリ。叙教派ハ自ラ多事ヲ為シ容貌ヲ作  
ル。トニ於テモ各畜ナル。トニ於テモ貧困ナル。ト  
ニ於テモ皆然リ。唯地上ニ許多ノ事ヲ為スノミ  
決シテ天ニ於テ智カヲ行フ。トナシ。叙教徒ニ正  
直ナル志尚アル者少ナシ。神ヲ索ムルニ實ニ之

三言

ニ逢ヘ之ヲ見ント欲スル者少ナシ。或ハ固有ノ  
真心ヲ亡スル。ト遙カナラサル者モ。才智昏迷ス  
ルヲ以テ神聖ヲ説クニ惑ヘリ。信心ノ謬誤ニ着  
眼スルモ向フ所ヲ知らズ。

且真實ハ不直中ニモ尚存ス。抑モ真神ハ一二ノ  
光線ヲ以テ。叙教徒ヲモ光明ニス。神ノ現著アル  
トハ。彼ニモ公明ナリ。神ハ彼ノ心ヲ開キタリ。神  
ハ世界ヲ開闢シ。萬物ヲ造為シ。無限ノ威力アリ。  
百般ノ事物神聖ノ作用ニ基カサルナシ。世界ノ  
構造以テ神德智謀威力ノ莫大ナルヲ証スルニ

真神ニ由テ  
目ノ神ヲ示スル  
ニ至リ



足ル。故ニ人ハ神ニ奉行スヘキナリ。其高尚ナル  
一仁惠アル一無限神聖ノ約束アル一。是神ヲ畏  
ル者ノ着眼スル所ナリ。人情ハ不精ニメ変化シ  
神慮ノ外ニ出ツ。妄ニ榮誉ヲ造物主ニ帰セス。ソ  
却テ神ナラサル者ヲ尊敬ス。然ルニ神ノ之ヲ怒  
スルハ之ヲ見放シタルナリ。

希臘人中句調ヨキセノボン極テ有名ナリ。文智  
アル卓子中ニ深遠ナル謀畧ヲ包藏ス。リコラテ  
スノ律義通亘耐忍學識ノ嘖々タル名譽ハ誰カ  
之ヲ比スヘキアラシヤ。アラトハ大ニ尊敬セラ

レテ希臘ニテハ既ニ神ト称セリ。然レモガリユ  
タルキユスハ尚悉ク罪アリトシ。雜談ヲ好ムト  
セリ。又ボトヂヨ一デハ此巧行アルカ為ニ有名  
ナルブリトソコラテス。及ヒレノボンヲ劇シク  
剥麻器ニテ引キタリ。羅句詩人ノ長ヒリギウス  
第二等田舎人ニ雜談ス。又カチユルリユス。及ヒ  
説法者シセルモ之カ為ニ烙記章ヲ附セラレタ  
リ。又往時ハ文智アル叙教徒自然ノ微光ヨリ不  
味ノ神教ニテ常民ヲ諭シハ避ケ嫌フヘキ所業  
ヲ怒セリ。當時日本人亦他ノ行状ニ於テハ正シ



キ如クナルモ此非道ノ雜文ヲ罰スルヲナシ真  
神ニ對スルヲ知ラサルヨリ誤慮ニ陥リタルハ  
豈ニ驚カサラシヤ兩男雜文相替ルアリ  
真ノ信心ハ人タル者ノ神ニ對スル緊務ナリ然  
ルニ他佛ヲ信スル人ハ其為ス所神ニ達セガル  
ナリ而シテ信心ニ三様ノ別アリ内部信心内外部  
相混スル信心又外部ノ信心是ナリ内部信  
心ハ内心神ヲ愛シ神ヲ畏レ又神ヲ親シムナ  
リ又内外混合信心トハ大ニ神ヲ拜シ内心亦之  
ヲ信シ而シテ内心信スル所ヲ口ニ發露スルナリ

故ニ心ト口トニテ神ヲ信スルナリ一ニハ得ル  
所ノ仁惠ヲ謝シ一ニハ舊徳ヲ保テ又新徳ヲ得  
シトスルナリ外部信心トハ信心ノ粧飾ヲ現シ  
寺院ヲ建立シ犧牲ヲ捧ケ齋戒シテ一身ノ容貌  
ヲ嚴肅ニシ低頭平身スルナリ又一部ニ於テハ  
頭ヲ低レ掌ヲ合シ或ハ吻口ス佛ハ諸善ヲ興ハ  
諸惡ヲ避ケル者ナリトシテ此状態ニテ祈念ス  
ルナリ  
然レモ一般ノ祈願ハ自ラ異ナリ假令瞻禮セサ  
ルモ一人ノ為ニ尊敬スルナリ故ニヤゴブハセ



回世上ニ出ラ。其第エサウレニ副フ。又アブラハム  
ハ國民ノ為ニ身ヲ屈シ。エノヘトスニ代ル。然レ  
モ信心ノ體自ラ異ナルハナゴドノソルスノ  
像ニテ見ルヘキカ如シ。

日本人ノ佛ト稱スル者ハ。往時ノ王公。或賢哲。本  
國ノ為ニ讐敵ヲ退治シ。大功ヲ奏スル者。或ハ仁  
政ヲ行フ者。或ハ學術ヲ創見シテ。功勞アル者ヲ  
追尊スルナリ。故ニ凡リ國家ニ功績アル人ヲ尊  
敬スルノ極。年月ヲ経ルニ隨テ。神事スルニ至リ  
タルナリ。例之トラシガハ。高麗ノ射者ナリ。日本

日本書紀

ノハ將ヲ追撃シタリ。故ニ此ノ多數ノ手臂ヲ具  
シ。鞭劍矢刀槌弓槍及ヒ杵ヲ執ルナリ。又鉄如ハ  
日本人ニ最モ早ク。魂魄他体ニ轉移スルトノベ  
トゴリセ。説ヲ教諭シタル者ナリ。是印土則チ天  
竺國ニ生ル所ナリ。又ハシ及ヒテハ。タシギニ  
タレノニ五ナリ。仁政ヲ施シタルヲ以テ。國人之ニ  
神事ナルナリ。又觀音ハ阿彌陀ノ子ナリ。三十手  
ヲ具ス。各手ニ二矢ヲ執ル。又比叡山ニ安置スル  
新佛ニ體ハ。日本將軍信長ノ建築スル所ナリ。  
日本人ニ孰ラハ大ニ現著ナルヲナリ。則チ日本



人ハ阿彌陀<sup>○</sup> 釈迦<sup>○</sup> 觀音<sup>○</sup> 三體トランガ<sup>○</sup> 及其他諸佛  
ニ一基本ヲ帰セリ<sup>○</sup> 而シテ真神ナシ<sup>○</sup> 故ニ無限ノ真  
神アルヲ知ラス<sup>○</sup> 神嘗ノ帰スル所ヲ知ラス<sup>○</sup> 又固  
有名ヲモ共ヘス<sup>○</sup> 神ヲ称スルニ一定語ナシ<sup>○</sup> ヨセ  
テデアコスタ<sup>○</sup> 西印土部ノ住人ヲ<sup>○</sup> 百露人ニ示ス  
ノ學者ヨアル<sup>○</sup> 説ニ據ル<sup>○</sup> 曰ク是北亞墨利加ニ境ス  
ル韃靼ヨリ<sup>○</sup> 分派スル所ナリ<sup>○</sup> 支那人ハ韃靼人ノ  
分枝ナリ<sup>○</sup> 而シテ日本人ハ支那人ヨリ<sup>○</sup> 分派スル所  
ナリ<sup>○</sup> 共ニ諸般ノ佛ニ固有名ヲ附ス<sup>○</sup> 然レモ無限  
ノ神ヲ固有ナリトセス<sup>○</sup> アコスタ曰ク百露人ハ

最上ノ神ヲヒラユ<sup>○</sup> フレト<sup>○</sup> 称ス<sup>○</sup> 又バカカマク<sup>○</sup> 及ヒ  
バカイアハシ<sup>○</sup> ト<sup>○</sup> 称ス<sup>○</sup> 天地ノ造為者ト云フノ  
意ナリ<sup>○</sup> 又之ヲ尊称シテ<sup>○</sup> エサビ<sup>○</sup> ト云フ<sup>○</sup> 不驚ト  
ノ意ナリ<sup>○</sup> 然レモ真物ヲ<sup>○</sup> 徴スルニ<sup>○</sup> 足ルノ語ナシ<sup>○</sup>  
猶他ノ人氏最尊上ナリト<sup>○</sup> 呼フカ<sup>○</sup> 如シ<sup>○</sup> 獨逸人ガ  
ツト<sup>○</sup> ト<sup>○</sup> 称スル者<sup>○</sup> ハ<sup>○</sup> ツレ<sup>○</sup> ト<sup>○</sup> 称ス<sup>○</sup> ハ<sup>○</sup> エル<sup>○</sup> 希臘人ハテ  
オス<sup>○</sup> 羅旬人ハ<sup>○</sup> テウ<sup>○</sup> ス<sup>○</sup> ハ<sup>○</sup> 称ス<sup>○</sup> 百露人ニ<sup>○</sup> ハ<sup>○</sup> 此<sup>○</sup> ノ<sup>○</sup> 如  
キ語ナシ<sup>○</sup> 西班牙人ヨリ<sup>○</sup> 之ヲ<sup>○</sup> 百露<sup>○</sup> ニ<sup>○</sup> 送リ<sup>○</sup> エウ<sup>○</sup> ア  
レ<sup>○</sup> ゲ<sup>○</sup> リ<sup>○</sup> ラ<sup>○</sup> ス<sup>○</sup> ヲ<sup>○</sup> 宣化ス<sup>○</sup> 西班牙語ノ<sup>○</sup> ジ<sup>○</sup> オ<sup>○</sup> ス<sup>○</sup> ト<sup>○</sup> 云フ  
ヲ<sup>○</sup> 以<sup>○</sup> テ<sup>○</sup> ゴ<sup>○</sup> ツ<sup>○</sup> ト<sup>○</sup> ヲ<sup>○</sup> 指<sup>○</sup> ス<sup>○</sup> ナリ<sup>○</sup> 是今日專ラ<sup>○</sup> 通用スル



所ナリ

ソイテン  
イシ内答

此百露人ハ造物者ヲ結構ナル寺院バキユマク  
ニ奉事ス。然レモ犧牲ヲ他ノ副神ニ献ス。日本人  
亦不朽ノ本體ヲ知ル。然レモ名ナリ。又之ニ神事  
スルイナク。造物ナル阿彌陀。釈迦。観音トランゲ  
及ヒ他ノ千万寺院ヲ建立ス。凡リ地球上何ノ邦  
國ニ於テモ如斯多寺ナル所ナキナリ。  
再ヒ前話ヲ繼ク。シヨリアン四イ、ソイテンヲ  
荷蘭人ノ傍ニ置キ。苛責シ曰ク。汝ノ神何故ニ汝  
ヲ救ハサルヤ。汝ノ生死。今日本將軍ノ手中ニア  
リ。尚神ノ手中ニアリトスルマシヨリアンガシ  
モ容赦ナク嚴戒スルニ拘ラヌ。勇壯ナルイ、ソ  
イテン答テ曰ク。我輩固信ス。神ノ威徳アル許可  
ヲ得ルニ非サレハ。誰カ敢テ頭上ノ一毛ヲモ引  
拔ンヤ。神ニ非サレハ不死ノ魂魄ヲ神聖ナラシ  
ムル者ナシ。之ヲ排撃スル者ハ必ラス重罰ヲ免  
カルヲ得ス。然リト。虽神ハ決シテ恩惠ヲ惜マヌ。  
最後ノ時ニ及テモ正シク後悔シテ歎願スレハ  
神聖タルヲ許サ、ルヲナシ。  
イ、ソイテン尚多事ヲ述ントスルニ似タリ。然



一 氏酒井左エ門尉様及松平伊豫様ハ目語ヲ受  
 へタルヲ以テ四イ、ソイテンヲ直ニ退去セシ  
 メリ之ニ代テ阿蘭人ヲ呼テニ執政ニ對向セシ  
 ハ左エ門尉様各言シテ曰ク  
 此特別段ナル才氣ヲ以テ説ク汝シカープ及ベ  
 ーレーヘルドヨ汝ハブレスケンスノ船長ナラ  
 サルヲ明ラカナリ若シ船長ナクハ如何シテ南  
 部港ヨリ船ヲ海上ニ出スヲ得ンヤ阿蘭人豈ニ  
 眼前ノ理ニ暗ク不規則ノヲアラセヤべーレ  
 ーヘルド答テ船長及ヒ下高官不在ニ方テハ舟士

長船内百事ヲ擔當シ他ノ舟士ヲ使役スルヲ常  
 例トス然レニ舟士長ハ其出船ノ令ヲ傳フル所  
 以ノ理ヲ辨解セサル可ラス故ニ伯帯比亞領事  
 ニ何何等ノ解ヲ為スヤヲ察スル所ナシ曾テ書  
 ヲ寄テ我輩ノ歸来ヲ待ツニアラサレハ南部港  
 ヲ出船スルヲ勿レト命シタルニ拘ラサルハ自  
 ラ出船セサルヲ得サルノ理アルヘキナリ是容  
 易ニ解スヘキ理ナリ察スルニ我輩ノ不意ニ拘  
 引セラレタルヲ聞テ不安心ナリト考ヘ假令日  
 本將軍ハ長崎ニテハ自由貿易ヲ許可スルモ日



本北部ニテハ。未ク阿蘭人ニ之ヲ許サ。ルト思  
フタルナルヘシ。又舟士ハ我輩江戸ヨリ。舟路南  
部港ニ来ルヨリハ陸路長崎ニ赴クヲ早シト察  
シタルナルハシ。

左工門尉様又曰ク。當今ノ日本將軍ハ。阿蘭人ニ  
自由貿易ヲ許スノミナラス。更ニ其父ニモ。祖父  
ニモ。自由ヲ與フレハ。其思過僅少ナルニフラス。  
然ルニ汝何故ニ久シク苦戦シタル葡國ト和ヲ  
講シ。交ヲ厚フスルヤ。抑モ葡國ハ日本國ニ於テ  
不可許ノ讐敵トスル所ナリ。是此處置フルヲ以

テ日本將軍ハ疑察シ。不満トスルナリ。他事ニ依  
ルニアラサルナリ。ベイレレハ。ルド答テ曰ク。西  
班牙王ハ。澳斯甸列幾ニ出テ。葡王ノ後ヲ請ケ。葡  
國ヲ領威權ヲ張り。久時無事ナリ。漸次ニ擴張シ  
テ。全歐羅巴ヲ併吞セントス。以太里ニ於テハ。王  
國ナリ。バルヲ下シ。又之ニ對スルシ。リレンテ  
押領セリ。是ニ於テ強盛ナル侯國ニテリ。ネレビ  
ユルキエンジン。及ヒ繁昌ナル阿蘭ヲモ。隨從  
セリ。西班牙全國皆掌中ニ在リ。又遠境ニハ。亞弗  
利加。及ヒ東印土ニ及ヒ。孰中ニレシカ。墨是。牙。及



亞墨利加諸地ニ及フ。其領境ノ廣大ナルヲ日出  
 ル所ヨリ日没スル所ニ至ル。殆ント全地球ニ及  
 ハントス。阿蘭ハ世界ノ一小部ナルノミ。其合衆  
 諸等ヲ併セテ從來戦争スルヲ十七年ニノ能ク  
 之ニ堪ヘ大ニ西班牙王ヲ驚カシ。威ヲ地球ノ全  
 部ニ張ルノ強敵ニ抗シタルモ。再來彼ノ為ニ諸  
 地諸街ヲ掠奪セラルト多ク。海上ニテ船舶ヲ失  
 スルト亦頗ル多シ。葡人虐政ニ耐ヘス。舊來ノ自  
 由ニ據テ舊王ヲ廢セントス。西班牙人ノ零落ヨリ  
 愈勇威ヲ震フ。是殊ニ蘭人ノ補助ニ由ル所ナリ。  
 蘭人亦此時ニ大勝ヲ得タリ。是葡人ヲ愛スル為  
 ニヲラス。尚西班牙王ヲ此道ニ由テ警セントスル  
 ナリ。阿蘭人ハ葡人ニ援助ヲ請フ。然リト虽心中  
 尚葡人ヲ恨ムトアリ。故ニ俄カニ和セヌ。近年ニ  
 及テ始テ和ヲ講セリ。東亞商會ハ合衆阿蘭國王  
 ガリンニスフハンオラニ一ノ管下ニ属ス。其命令  
 ニ伯帯比亞ニテ葡人ト講和シ。敢テ敵視スルヲ  
 勿レトアリ。然レモ日本將軍ハ阿蘭人ニ仁惠ヲ  
 ルヲ以テ我輩ノ尤モ尊敬シ。尤モ懇切ニ親睦ス  
 ル所ナリ。



左工門尉様更ニ問テ曰ク。葡僧ハ嘗テ曰ク神ヲ  
信シテ之ヲ拜祈シ。犧牲ヲ献スレハ畜ニ自己ノ  
身ノミナラス。他人ノ身ヲモ救助シ得ハシト。汝  
等阿蘭人亦彼ヲ救ヒ得ハシト信スルヤシカリ  
テ曰ク大有カ君ヨ。是謬誤ナリ。何如ソ我魂魄及  
ヒ身体ニ附属スル者ヲ救フヲ得ンヤ。是葡人ト  
蘭人トノ間ニ於テ信心ノ大差異アル所以ナリ。  
僧徒威權盛ナル中ニ方テ彼ノ為ニ殺サル者數  
千人ニ及ヘリ。而ソ當今ハ復タ殺サスト。尚我  
ヲ永ク悲哀ノ中ニ在ラシメントス。我ヲ消滅セ

サル火罐上ニ向テ罵ル。彼焉ソ他ヲ救フヲ得ン  
ヤ。既ニ救フヘキノ術アラハ。何ソ自ラ苦テ此苛  
責ヲ甘ンシ。此術ヲ惜ムテアランヤ。我信ス日本  
將軍我輩囚人ヲ放解シ自在ヲ得テ長崎ニ赴カ  
シムヘシトシカリ。此語ヲ聞テ日本諸貴人  
皆笑フ。

然レモ此尋問中筑後殿ノ傍ニ一秘書記アリ。諸  
問答ヲ逐一ニ登録ス。其書記スルノ法左ノ如シ。  
墨斗ハ細長キ箱ニ似タリ。其上蓋ヨリ長頸小躡  
ノ口ヲ出ス。縁ニ漆ヲ塗リ。破碎ヲ防ク。管分テ三

秘書記  
逐一ニ登録ス



部トナシ墨汁ノ側ニ挿ス。此内筆ヲ藏ス。墨汁ハ  
小筆ニテ塞ク。上ニ記スル小蠟在ル所ノ箱ニ區  
限アリテ墨塊ヲ納ムヘシ。此墨塊或ハ赤色或ハ  
黒色ナリ。極テ高價ナリ。之ヲ製スルト容易ナラ  
サレハナリ。此墨塊ニハ將軍家ノ記章ヲ缺ク可  
ラス。全権ノ人アリ之ヲ檢査スル後始テ記章ヲ  
印スルナリ。之ヲ堅起スレハ上端ニ記字アリ亦  
前ノ全権ノ附スル所ナリ。此記章ナキ者ヲ賣買  
シ或ハ使用スレハ死罪ニ處スルト云フ。  
日本人ハ書法ニ於テ人穎敏ナリ。其精妙ニ至ル

者ハ大ニ世ノ感賞スル所トナル。是實ニ世上發  
現ノ状ヲ記スルノミナラス。更ニ造物及ヒ造化  
ノ秘奥ヲ紙上ニ留メ之ヲ後世ニ傳テ往時ヲ回  
顧セシムルニ足レハナリ。故ニ希臘ノ先哲アテ  
サゴラス曰ク。人ハ万物中ノ最靈最強ノ者也。又  
文字ヲ以テ事ヲ為ス人ハ死スルトナシ。何トナ  
レハ善良ナル書冊ハ百世ニ傳ヘテ人ヲノ忘レ  
サラシメ。後人ヲ教諭スルニ足レハナリ。  
日本人使用スル所ノ筆軸ハ銅造或ハ銀造ナリ。  
木端ニ八角ナル座アリ。平滑ナリ。以テ印材トナ



シ書記スルノ後之ヲ捺スルニ供ス此印形ノ下  
ニ凹四アリ墨粉或ハ赤粉ヲ貯フ印字ノ黒或ハ  
赤ヲ要スルニ應シテ之ヲ撰用ス軸ノ中間ニ畫  
紗アリ以テ粧飾ニ供ス軸尖ニ毛筆アリ之ヲ使  
用スル法ハ

上ニ記スル墨<sup>筆</sup>ノ側ニ凹形ノ鞘アリ筆ヲ入ル  
ニ供ス一方ニハ長四角ナル硯アリ四箇ノ窪ア  
リ此ノ硯端ニ八本ノ銅造或ハ銀造ノ<sup>鐵</sup>ヲ列起ス  
以テ筆尖ヲ整理シ或ハ尖銳ナラシム或ハ過多  
ノ墨汁ヲ省減スヘシ此四箇ノ窪ニ上ノ小<sup>罎</sup>ノ

水ヲ注キ墨色濃淡ヲ適節ス先ツ筆毛ヲ水ニ浸  
シ後記章アル墨塊ニテ染ムルナリ

運筆ノ法歐羅巴人トハ全ク異ナリ日本人ハ筆  
ヲ三指間ニ挾マシテ掌間ニ握ルナリ軸ノ上  
端ヲ拇指ト前指トノ間ニ出シ中部ヲ掌間ニ固  
握シ以テ非常ニ迅速ニ運用スルナリ紙ハ政羅  
巴製ニ異ナラス唯色稍白ナラサレモ質平滑ナ  
リ背面ハ青地ニ筋違角ニ銀線ヲ現出ス  
字體ニ四様ノ別アリ第一法ハ舊法ニテ古未敢  
テ変セスヘバレインシカレインシリールス<sup>並</sup>



刺伯及埃及人ニ於ケルカ如ク右側ニ始マリ  
 左側ニ終ル之ニ反シテ羅旬希臘セルテシ及ヒ  
 他ノ改羅巴人ハ左側ニ始マリ右側ニ終ル末世  
 ノ希臘人ハ文字ヲ記スルニ第三法ヲ固持ス先  
 ソロニ見ルカ如シル法則則第一行終ルハ頭ヲ脊  
 フニスレテ第二行ニ及ヒ第二行終ルニ第三行ヲ始ル  
 ニモ亦前ノ如クヌ猶海岸出入シテ岬角ヲ為ス  
 カ如ク一終リ一始ム相接スル者一列ヲ為サヌ又  
 支那人印土ノ大部及ヒ日本人ハ上ヨリ下ニ行  
 キ右ヨリ左ニ移ルアレキサンボルアアアレキ  
 サレドロ同ク舊モ一レシハ往時ハ一字ヲ一字  
 ノ下ニ置ケリアコスタ曰ク墨西哥人亦然リト  
 末世ニ至テ此術大ニ精巧ニ進ミ各人創意ノ発  
 明アリ其始尋常事件ハ鉛板ニ彫刻セリ然ルニ  
 偶然ノ事ヨリ麻布ニ記スルヲ發明セリ埃及  
 人始テ紙ヲ製スルニ木纖維ト糊トヲ以テセリ  
 又羅馬ニテハ木片ニ蠟ヲ附シニ枚ニ枚或ハ五  
 枚ヲ縫合セ各色ヲ附シタリ則テ珀芙蓉色或ハ  
 卵黄色或ハ緑色或ハ紫色ナリ書牘ニハ三色官  
 制職粉ニハ五色祕事ニハ複色ヲ用テ希臘人ハ



リシゲ木ノ内皮ヲ書紙ニ代フアタリユスベル  
ガニユム街ニ於テ羔皮ヲ朶明セリ自來今ニ至  
ルマテ改羅巴ニバルカメニトノ名ヲ存セリ  
ラマネスハ印土ニテノ古物ナリ精布ニ黒字ヲ  
記ス

カドニユス曰ク希臘字ハバニシヨリ希臘  
ニ送ルナリトラドマンチユス曰クアンリル  
スメムノシ及ヒアニユビス埃及人ヘルキユリ  
ユスホルキール人カルメシス羅甸人各々各様  
ノ字アリ日本人ハ古代支那ヨリ分派スル所ナ

三

リ書法及ヒ他事皆之ヨリ倣フ支那歴史ニ記ス  
伏羲ハ支那第一帝ナリ其即位ハ洪水後三百年  
ニアリ始テ文字ヲ製ス蛇及ヒ龍ノ蟠屈スルヲ  
警クヘキノ状ニ掾ル故ニ度學及ヒ星學ニ屬ス  
ル書ヲ支那人ハホヒシリユムシニト稱ス猶伏羲  
義龍書ト云フカ如シ自後支那帝各様ノ書法ヲ  
朶明セリシムニユムハ圖様ヲ考案セリ農具ニ  
取ルシヤウホアムハ鳥蹟ヨリシキユエムキム  
ハ牡蛎及ヒ昆蟲或ハ草根ヨリシコアンハムハ  
蹇屈シタル鳥足ヨリシヤオハ龜甲ヨリス此等



支那文字の起原  
支那文字の起原

ノ文字ノ外。曰支那人及ヒ日本人ハ。孔雀或ハ草  
或ハ鳥翼ヨリシ。又コ帝ハ各種ノ縷毛ヨリシ。又  
恒星惑星。或ハ魚類ノ状ヲ擬スルアリ。此外更ニ  
各種ノ文字アリ。私事細用ニ用フルアリ。公事要  
件ニ用フルアリ。又安寧慶賀。帛祭。辨解ニ用フル  
字形ハ日本字ト少シモ似タル所ナシ。

此文字ノ起原ヲ論スルニ。諸家説ヲ一ニセス。或  
ハアシリールスヲ創見トシ。或ハ埃及人ニ此業  
ヲ帰スルアリ。支那人及ヒ日本人ハ三千六百八  
十九年前第一世帝伏羲氏龍書ヲ誌トシテ。アシ

リールス。及ヒ埃及人ヨリハ前ニアリトス。然レ  
凡支那人モ埃及人モ共ニ文字ニアラス。動物  
及ヒ植物ヲ徴示スト。蚕。其間自ラ差異アルハ言  
ヲ俟サルナリ。何トナレハ埃及人ハ之ヲ常用ス  
ルニアラス。唯信心ニ於テ此徴候ヲ用フルノミ  
ナリ。故ニ高尚ナル學術ヲ脩ムル者ニアラサル  
ヨリハ。敢テ常人ノ知ルヘキ所ニアラス。又埃及  
人ハ徴候ハ其形状ヲ以テ事物ヲ示スノミナラ  
ス。更ニ事物ノ隠伏シタル性質。及ヒ固有ノ作用  
ヲモ察セシムルナリ。之ニ反シテ支那人及ヒ日



キオレキヲ誤ラ  
何故ニ通ルルヤ

本人ハ文字ヲ日用ノ事件及ヒ自然ノ事件ヲ記  
スルニ用ヒ且ツ直言シテ敢テ隱匿スルコトナシ  
又支那人ハ尋常ノ言語ヲキユオンホアト称シ  
之ヲ緊要技術トス支那ハ極テ廣大且ツ強盛ナ  
ル諸王國ニ分ツヲ以テ其公候年々マシダリ  
シス支那帝ニ謁見スル為ニ北京或ハ南京ニ出  
サルヲ得ス而シテ各國各國有ノ言語アリ全ク隣  
國ニ異ナリ但シキユオンホア語ハ特別ニテ帝  
ニ王宮ニ奉事スル人ノミナラス萬民亦之ヲ使  
用シ又國人ノミナラス附庸ノ各國人亦皆共ニ

此ノ語解ハ  
言ノ源ハ

三美

用アル所ナリ蓋シ此語尤モ正シケレハナリ夫  
レ言語ノ數極テ多シト云僅カニ三百二十六字  
ヲ以テ根基トス共ニ一字ニ成ル必ラス母音ア  
エイオウ或ハム及及ヒンニ終ル是ニ於テ一字  
ニテ二十様或ハ更ニ多様ノ意ヲ示スコトアリ  
音ノ強弱緩急ニ依テ之ヲ分ツ稍意ヲ異ニスレ  
ハ必ラス音ヲ別ニス  
マシタリレンス字ノ要用ナル所以ハ之ヲ書シ  
テ支那人日本人高麗人東京人及ヒ支趾ニモ通  
用スルニアリ然レ氏決シテ之ヲ發音スルコト能



日本言語ハ傲慢ニシテ爽快ナリ

ハ談教

ハス一字ノ発音各地ニ於テ相異ナレハナリ抑  
モマシロソククレサレ蠟燭ヲコレゴザリマス茲  
政羅巴ニ通用スレ氏之ヲ発音スレハ各人解ス  
ルヲ得ス蓋シ各民称呼ヲ異ニスレハナリ  
日本言語ハ傲慢ニノ爽快ナリ故ニ言ハント欲  
スルノ意中ヲ十分ニ吐露ス母音多ク且ツ強母  
音ナリ今小話數條ヲ掲ク  
モシロソククレサレ蠟燭ヲコレゴザリマス茲  
ヨ来レサレマシヨ汝ニイッモタカマシヨ汝意ニ  
ヤイクラモシ其價若干トドケイゴザリマス汝何邊

日本官吏ノ蘭人ニ  
應答

クヤ行メシクミス飯ヲ喫ソイメイレマス水ヲゲ  
キオドノ或ハサマ君長ナントモス汝何ヲマダ  
シタ稍待イマゴザリマス余直ニヨメゴサマ貴  
ボ戸陰ス醋ワルグザル惡シソレワルグザル夫  
シ惡カタジカノীগザリマス余大ニ感謝スカタニア方  
コナタサマガテ汝ンナカ汝誤解コナタサマガテ  
ングザル汝能セリワタクシガテ余能セク  
リアレガテ汝ンナカ汝解ベニシイコマシヨ舟行  
シメデトグザリマス慶賀ス  
更ニ前話ヲ継クシカープハ左エ門尉様ノ荷蘭



入ハ葡僧ヲ護送シタルニ非スヤトノ問ニ答フ  
ル後更ニ曰ク僧徒ハ自ラ許多ノ難ヲ免カレン  
カ為ニ他ヲ欺クノ術ニ慣ルト此時日本諸君皆  
笑フ前堂ニ新製ノ鼓アリ執政伊豫様少年マコ  
ブデバウニ鼓ヲ打ツヲ解スルヤト問フバ  
ウ曰ク此術ヲ知ラサルニアラスト則チ或ハ進  
軍ノ調ヲ奏シ或ハ信號ノ音ヲ奏ス諸君之ヲ聞  
テ悦喜スルニ似タリ然レモ忽チ之ヲ止メシメ  
皆退去シ阿蘭人モ亦旅舎ニ帰ルヘキノ許可ヲ  
得タリ

途上一貴女ノ從者多數ヲ伴ヒ行クヲ見ル從者  
中或ハ漆塗ノ履ヲ執ルアリ或ハ汗巾ヲ執ルア  
リ或ハ果糕ヲ納ムルノ櫃ヲ荷フテ從フアリ西  
側ニ侍婢アリ扇ヲ執テ進行ス稍離レテ側女中  
二人アリ各曲リタル棒ヲ執ル中間ニ絹ノ日覆  
アリ之ヲ捧ケテ貴女ノ頭上ヲ蓋フ此婦人皆極  
テ立派ナル衣装ナリ髪ハ束ネテ髻ハ頂ニアリ  
前頭ノ左側ニ金簪ヲ毛中ニ挿ス此簪頭ニ立派  
ナル剪線ヲ附ス耳ハ両側ニ真珠索ヲ掛ク腹ニ  
潤キ帶ヲ纏金彩散乱ス日本外套ハ下衣ノ上ニ



アリテ潤袖ナリ精縮ニ成ル身位ニ應シ員數多  
少ノ差アリ或ハ五枚六枚十枚二十枚或ハ百枚  
ナルアリ相重層シテ裾ヲ牽ク

此ノ如キ行装ハ大ニ荷蘭人ノ目ヲ驚カスヲ以  
テ其通過ヲ見送リタリシカリープ及ヒベール  
ヘルドハ。訊官藤左衛門及ヒマニケベト。筑後殿  
邸内ニテノ処置ヲ再話ス。荷蘭人此時問テ曰ク  
何故ニ四人ノ囚僧ト共ニ置タルヤ。前以テ此言  
ヲ聞カサル所ナリ又何故ニ執政讚岐様及ヒ伊  
豫様筑後殿ト共ニ俄カニ退去セシヤ。藤左衛門

三

曰ク讚岐様ハ如何ノ意味ニテ察シタルヤ。其阿  
蘭人ヲ見ル片其顔色ニテ葡僧ヲ護送シタルト  
決スルニ似タリ殊ニ四人ノ葡ノ囚僧列坐スル  
片阿蘭人大ニ悦喜ノ状アリ是ニ於テ俄カニ退  
去シ殿中ニテ再議ヲ論クニ多時ヲ費ヤスヘシ  
トスレハナリ

二續傳概論

其後阿蘭人家僕ヨリ一書ヲ達スルアリ前ノ四  
葡僧ニ関スル件ナリ其二人ハ日本佛教ニ変宗  
セリ故ニシヨリアン急ニ長崎ニ旅行シ此二人  
ハ日本ニ滞留シテ處置ヲ待チ他ノ二葡僧ノ拷



四説官ニ書シテ  
二國モス

問傍觀スヘシトナリ。

伊左エ門ハ阿蘭人ヲ南部ヨリ江戸ニ護送シタ  
ル一貴人ナリブレステンス舟士ヨリ寄スルノ  
書ヲ達セリマニケベラシテ直チニ日本文ニ記  
セシム

三九

十月二十四日。訳官藤左エ門マニケベ吉兵衛及  
ヒ八左エ門大ニ煩忙セリ。蓋シ執政ヨリ千六百  
四十三年四月二十四日。附伯帶比亞領事ヨリ長  
崎奉行三良左エ門殿ニ寄スル書ナリ。一ハ蘭文  
一ハ葡文ニテ同意味ノ事ヲ記スルナリ。讚岐様

蘭人致種通候テ  
深ク

ハ草簡ニ大意ヲ知ラント欲ス。訳官等頭ヲ傾テ  
相議シ。徒ニ時ヲ消シテ訳成ラス。是ニ於テ阿蘭  
人ニ命シテ之ヲ補助セシム。荷蘭訳官藤左エ門  
及ヒマニケベノ荷蘭言語ヲ知ラス。訳官ノ職  
ニ當ルハ怪シムヘキ所ナリ。荷蘭人謂ラク寧ロ  
葡訳官吉兵衛及ヒ八左エ門ヲシテ葡文ヲ訳セ  
シムルヲ優レリトスト。其訳成ルニ及テ。四訳官  
始テ此ニ書ノ同意ナルヲ悟レリ。則チ之ヲ日本  
文ニ訳シ。原文ニ違ハサルヲ証ス。  
翌日マニケベ阿蘭人ノ旅舎ヲ訪フ。語次曰ク。昨



日筑後殿及ヒ他ノ日本執政議スル所アリ。荷蘭  
人等江戸ニ在テエルセラクノ到着ヲ待ツヘシ  
ト依テマニケベヨリ請テ曰ク。然ル所ハ時季寒  
冷ニ向フヲ以テ十四人ノ為ニ綿ヲ盈ル夜着ノ  
ミナラス更ニ他ノ缺乏品ヲ備ヘシメント。又筑  
後殿ヨリノ傳言ニ曰ク。阿蘭人等愛思スルトナ  
ク泰然トソエラクノ不日江戸ニ着スルヲ  
待ツヘシト。又八左衛門~~親~~シテ曰ク。長崎ヨリノ  
通信ニ和蘭船入津セリ。鮫皮胡椒及ヒ蘓木ヲ多  
載ス。又曰ク出島ニアル阿蘭人ノ小舎火ヲ失セ  
セリ。然レ厄速カニ撲滅シタルヲ以テ大害ニ至  
ラサリシ。

変宗僧レヨリアン。將ニ長崎ニ出立セントシ。未  
テ別ヲ告ク。則チ一二日前ニ裁スル所ノ書ヲエ  
ルセラクニ達セン。トヲ托シタルニ。彼之ヲ辭シ  
テ曰ク。筑後殿命アリ。敢テ荷蘭人ノ書ヲ却スル  
ト勿レト。故ニ余此托ヲ拒ム。但シエラセラクニ  
逢フトアテハ。我~~逃~~況ヲハ述スルハ妨ナカルヘ  
シト。シヨリアン之ヲ諾ス。

十一月十一日。訊官吉兵衛八左衛門及ヒマニケ



べ再々荷荷蘭人ヲ訪フ。而ノ二書ヲ達ス。一ハ阿  
蘭船キユイナムメルスト戰ヒ燒カレタル者ヨ  
リスル所。一ハ筑後殿ヨリ阿蘭人ニ從來禁シタ  
ルノ毛髮ヲ短截スルヲ許セルナリ。

一二日ノ後藤左卫門ヨリ傷心スヘキ通信アリ。  
曰ク荷蘭人迎頃丁寧ニ毛髮ヲ短截シタルナリ。  
日本將軍未タ之ヲ許シタルニアラス。盖シ荷蘭  
人葡僧ヲ送リタルノ罪状未タ明白ナラサレハ  
尚謹慎ナルヘキニ恣ニ毛髮ヲ短截セルナリ抑  
モ疑惑ヲ固結セシムルハ荷蘭人ノ葡國ト和ヲ

講シタルナリ。其往時葡國ト兵ヲ構フ所ニハ未  
タ曾テ日本北部ニ至ルヲ勿カリシナリ。是將軍  
ノ少過ナラストスル所以ナリ。汝輩常ニ日本岸  
ノ東南ニ在テ遙カニ離隔スルモ。尚日本將軍ニ  
属スル金銀島ニ至ラントスルノ念アルヘシ。江  
戸ニ来ルモ汝輩此企望ヲ隱秘スルナルヘシ。故  
ニ將軍ハエルセラクノ到着スルヲ待テ。果ソ葡  
僧ヲ送リタルニ非サルヲ又金銀島ヲ探ルカ為  
ニ非サルヲ明瞭ニ決スル後ニアラサレハ敢  
テ自由ナラサラシメントスルナリ。



ベールヘルド藤左エ門ニ向テ曰ク。此等ノ島  
ハ何ノ邊ニアルヤ。阿蘭人未夕曾テ聞知スル者  
ナキ所ナリ。藤左エ門曰ク。南部港ヲ距ルテ海上  
六十里ニアリト。是ニ於テシカールプ及ヒベール  
ヘルド想像スルニカストレコム五月十九日  
夜見失ヒタルハ則チ江戸ノ東南東五十六度ナ  
リ恐クハ或ハ之ニ至リタルナルヘシ。  
此ノ如キ談話中家主我ヲ美室ニ請招セリ至レ  
ハ則チ吉兵衛及ハ左エ門。又日本貴人既ニ着坐  
セリ大紙ニ日本字ヲ記シ貼シタル四角ナル漆

塗櫃ヲ示セリ。貴人尊大ニメ毛皮ノ美服ヲ着シ。  
美褥ニ坐ス。頭髮ハ前後及ヒ耳邊皆剃除ス。羽織  
ハ胸前ニテ相開ク。心部ニ當テ金飾アリ。羽織ノ  
下ニハ彩紋アル下衣ヲ着ク。袴濶ク膝ヲ過ク。左  
手ニ扇ヲ執ル。柄ノ上端ニ鍍金薔薇花アリ。双方  
ニ侍臣アリテ褥ヲ持チ。四方ノ總ヲ同等平均ナ  
ラシム。貴人多クハ此ノ如キ裝飾ニテ屋内ニア  
リ。其好ニ隨テ褥ヲ他所ニ移スナリ。又戶外ニ出  
ルニハ轎夫ヲ要スルナリ。  
是ニ於テ貴人漆櫃ヲ開キ之ヨリ阿蘭船中用ノ



德利及ヒ大盞ヲ出シ更ニ赤條アルダニオン支  
那製ノ磁器帆衣一片テルナリテ煙草白ダマ  
スト一片紅黃相混スル珊瑚一連ナリ貴人一々  
之ヲ荷蘭人ニ示シ又藤左エ門及ヒマニケベニ  
由テ次件ヲ問ハシム

シカープ及ヒベールドヨ今示ス所ノ品  
ヲ知ラスヤ是曾テブレスケンスヨリ魚類野菜  
或ハ他品ト貿易シタル物ニアラスヤシカープ  
答我之ヲ觀ルニ支那製陶器ダニオン巴里珊瑚  
ノ外ハ悉ク荷蘭品ナルヲ知ル又我カ船内所用

ノ品ニ同シ然レモ余カ考フ所ニテハ決シテブ  
レスケンス舟士ヨリ前記ノ諸品ニ貿易シタル  
ニアラサルベシ貴人尚信セストセハ請フ他ノ  
八人ニ詰問セハ自ラ疑ヲ解クヘキ者アラシ  
テ衆ヲ招テ之ニ示スニ皆言フ所シカープ及ヒ  
ベールドノ詞ニ異ナラス且ツ皆藤左エ門  
ニ就テ貴人ハ何ノ地何ノ時ニ日本人ト貿易シ  
タリト言フヤヲ質サシム

貴人曰ク貿易シタルハ八月二十五日ナリ則チ  
阿蘭人江戸ニ護送セララルノ初日日本東岸ニ遙



カニ北来ノ一船アリ長サ大畧三十尋幅二十五尺船内ニ十六砲ロイムニ三端舟ニ四砲アルヲ見ル又一鸚鵡ヲ繫ケリ鍛冶工業ヲ執レリ舟士多クハ絹衣ヲ着ケ金環ヲ所持ス日本人ノ魚ト交易センヲ求ム漁者陸ニ帰リ習慣ニ依テ之ヲ官吏ニ告ケ海上異船ニ遇フヲ報ス則チ行テ之ヲ索ムルニ其船去テ行ク所ヲ知ラスト蘭人此説ヲ聞テカストレコムハ推察スルカ如クニ遠ク距リタルニ非サルヲ知ル此時日本漁者ト交易シタルナルヘシ

カストレコム  
フシク記

貴人更ニ問フカストレコム及ヒブレスケンス長幅若干各銃砲幾門ヲ備フルヤ砲ハ端舟ニテ引クヤ船内ニ置クヤレカープ答察スルニカストレコム長三十九尋幅四尋半伯帶比亞出船ノ時ニハ同シク十五砲ヲ備フブリンススチユフキ「モ此數内ニアリ端舟ニテ送ル然レモテルナリテシニテカストレコムハブレスケンスヨリ四砲ヲ奪ヒタリ故ニ多數トナレリ又カストレコムニハ一ブラーウチー舟ト一端舟アルノミ他ノ小舟ナシブリンススチエツキ「ト石砲



三門ヲ備フ。ブレスケンス。ハ長サ百八尺。幅五尋。端舟ニテ砲ヲ送ル。トカストレコムノ如クセシ。ニ我輩日本ヲ見ルニ及テ。本船ニ移セリ。藤左エ門命セラレテ。他事ニ問ヒ及フ。ト左ノ如シ。橋ノ圓木。スターゲン。ラース。ヲガレスケンス。ハ流矢シタルヤ。遊具ヲ存セサルヤ。鸚鵡及ヒ鍛冶エナキヤ。船内少年幾人。舟士幾人。絹衣ヲ着シ。金環ヲ所持スルヤ。ガレスケンス。ハ小舟。端舟。及ヒ鸚鵡ヲ後ニ引クヤ。或ハ船内ニ置クヤ。壁上ニ葡船帆ヲ張ルノ圖。幅ヲ掛ケタリ。バール

ハールド。之ニ向テ進ミ。指ニテ。凡リ圓木ハ。十字ノ外。ボーン。ブリンデス。ラング。モブリンデレ。モ。暴風ノ為ニ。損害ヲ蒙ルリタルヲ示セリ。ガリウー。ン。モ。激浪ノ為ニ。流失セリ。ブレスケンス。内ニハ。胡弓及ヒ笛アリ。然レモ。鍛冶ナキヲ以テ。ゴユス。シキ。イテ。ルス。マ。ト。ヲ。以テ。ズ。ワールド。ハ。イゲルニ。代用セリ。テ。ル。ナ。ト。ラ。ニ。ヨリ。ニ。鸚鵡ヲ。携ヘタルハ。韃靼ニテ。進物ニセント謀リタルナリ。未タ。日本地方ニ至ラサル前ニ。於テ。死セリ。カストコムニテ。飼フ所。今尚存保スルヤ。不ヤラ



知ラス。又ブレスケンスルニハ四少年アレヒ。絹衣ヲ着ケ。金環ヲ佩フヘキ者ナシ。但シ舟士三人アリ。絹衣ヲ所持シ。櫃中ニ貯フ。カストレコムニ長官。船主。高官。下書記官。及ヒ外科医ハ。絹衣及ヒ金環ヲ所持セリ。笛。ボツルス。ペーパー。テル。又胡弓モアリ。又我小舟ハ洋中ニテ流失シタレヒ。端舟及ヒブラー。ハ跡ニ引クタリ。上ニ記スル諸問ハ日本字ニテ満紙ニ記シタルヲ貴人讀ミ。一問毎ニ日本紙上ニ録自ヲ存ス。荷蘭人ノ答語ヲ疾速ニ記載ス。藤左工門記スル所

ハ書記スル如ク速カナルヲ得ス。抑モ日本字ハ一字毎ニ一意ヲ顯ス。故ニ字数極テ夥シ。アタナシスキルセイルノ説ニテハ八萬字アリト云フ。是則支那人。及ヒ日本人ノ一字ヲ一字ノ下ニ記スル所以ナリ。一字毎ニ一意アリ。此ノ如キ書法ハ。亞墨利加殖民ノ韃靼ヨリカタヤヲ經。アニアシ。ンヲ過キタルヲ証スルノ一事ナリ。此ノ如ク經過スルニハ氷海ヨリ南海ニ至ルヘシ。墨是哥ハ判然トノ韃靼ヨリ分派シ。支那モ亦之ヨリシ。日本ハ支那ヨリスルナリ。又墨是哥人筆ヲ掌中



ニ握り書ス。一字則チ一語ナリ。一字ヲ一字ノ下ニ置ク。定字缺クニ逢ヘハ假字ヲ以テ之ヲ補フ。ヨセフアコスタ証言ス。墨是哥地方エカトシニテハ木葉ヲ綴合セタル書アリ。印土人極テ之ヲ尊敬ス。時期ノ差別恒星及ヒ惑星ノ循環鳥獸草木藥劑ノ記アリ。墨是哥ノ日記戰事國政等ヲ摸形及キリスカラスセンニテ記録スル。日本及ヒ支那法ノ如シ。西班牙信心者ハ異國ノ摸形ヲ見テ幻術ナリトシテ旧時ノ書類ヲ燒棄タリ。アコスタ大ニ之ヲ歎スル理ナキニアラサルナリ。

西班牙人墨是哥ヲ押領シタル時ニ此同意ニテ書類ヲ燒棄タリ。是實ニ貯藏スヘキノ緊要件ナリ。墨是哥ニハ萬事ヲ書記シ存スルノ特別ノ法アレド此書法ハ近隣百露人ノ知ラサル所ナリ。摸形キリスカラスセン又文字ニ書スル者ヲモ知ラス。結節ヲ附スル多色ノ繩ヲ以テ書冊ニ代フル全推吏アリ。キユイボスカマヨト称ス。其職務ハ改羅巴ノ書記官ニ異ナラス。此キユイボスカ



マヨハ人民甲乙間ノ量見。管嫁ノ契約。典質借貸等百般ノ事件ヲ保管スル者ナリ。訴訟ニ方テハ唯此キエイボスヲ以テ判決ス。其権力政羅巴ニテ赫々タル刑書ニ異ナルヲナシ。大ニ驚クヘキハ百露人書記ナクシテ算計スルヲ速カナルヲ遙カニ算術家ニ優ルナリ。其法ハ甲一球乙三球丙八球アリ。一道ニ彼此ヲ置換ヘ。三或ハニヲ轉移シ。加減乗除少差アルヲナシ。

三

再ヒ荷蘭囚人ノ処置ニ説キ及フヘシ。貴人ハ問答ヲ詳記シ退去セリ。阿蘭訟官ニ上ノ船到ル所

ヲ問フニ松前ナリト云フ。松前ノ経緯ヲ問フニ知ラスト云フ。此ノ如キ應對ノ事。蘭人解セサル所ナリ。一ニノ家僕ヨリ他言スル勿レトノ約ニテ。窃カニ報スルアリ。曰ク上ニ記スル船ノ舟士等追捕セラレ入牢シタリト。

母進捕と云入牢

翌日蘭人再ヒ旅舎ノ別室ニ入ル。則チ見ル訟官四人及ヒ一貴人坐セリ。此人ハ前日滿紙ノ問題ヲ讀ミタル人ナリ。豊後ト称ス。豊後ノ外更ニ三人アリ。是未ダ見タルヲナキ入ナリ。擗猛ニ蘭人ヲ睨ス。察スルニ一人ハ四十二歳ナルヘシ。長身ナ



リ顔大ニシ扁褐色ナリ。鼻扁壓ス。蓋シ蘭囚十人中海上ニテ見タル舟士ノ遁走シタル者ニアラサルヤヲ検査スル為ニ来リタルナリ。

此時豊後ハ前日ト同一ノ問ヲ癸シ。尚遺漏勿ラシメンカ為ニ反復シ。而シテ更ニ新問ヲ添フカストレコム船ノ長官。船主及ヒ高官ノ体格及ヒ年齢如何。舟士幾人短毛ナルヤカストレコム及ヒブレスケンス。伯帯比亞ヲ抜錨スル中幾人ヲ載スルヤレカ。答長官ハ四十一歳。壮勇ニシテ長身。褐毛。細長キ髭アリ。船主ハ二十六歳。身長中

等ナリ。高官ハ船主ヨリ少ナキ。三歳。髭ナシ。短毛ナル者幾人ナルヲ詳カニセス。然レ氏恐ラクハブレスケンスニハ十五人至二十人ナルヘシ。又カストレコム及ヒブレスケンス共ニ伯帯比亞ヲ癸スル中ハ各六十人ヲ載ス。

豊後ハ此答語ヲ常例ノ如ク再ヒ記シ退ク。然レ氏尚三貴人ト内話シタリ。是荷蘭人ノ驚ク所ナリ。故ニ豊後ノ從者ヲ引テ退去スルノ後。訊官藤左卫門及ヒマニケベニ就テ問フアリ。一ハ上ニ記スル船ヲ何ノ地ニテ見タルヤ。其舟士何ノ



処ニテ捕ハレタルヤ一ハ此ノ如キ事件ヨリ囚  
人ニ如何ナル災難ヲ添加スヘキヤ藤左エ門曰  
ク前ノ船ハ日本ノ北岸ヨリ南行セントシテ静  
風ニ帆ヲ揚ケタリ從行ノ船ニハ播片帆ノ張ホ  
及石銃四門ヲ載セリ側ニブラウイチヲ泛フ  
藤左エ門又曰ク是何ノ災難ヲ添フルトアラシ  
ヤ若シカストレコムノ囚人鞭靱ニ赴ク者タル  
ヲ明言セハ却テ汝輩放免ノ期ヲ速カナラシム  
ヘシ是其述ル所同一ナレハ前言ヲ証スルニ足  
レハナリ

イソイシ足シ  
何故ニ日本軍故  
免セヤ

後蘭人ハ左エ門及ヒ旅舎少主人ヨリ聞ク所ニ  
テハ將軍ハ四イ、ソイテン則チ以太里人二名  
カステリアーシ一名葡人一名ヲ入牢セシメ  
ルセラクノ到着ヲ待チ之ニ托シテ伯帶比亜ニ  
送ラントスト彼輩残酷ナル死刑ヲ免カルモ終  
ニ必ラス死ニ処セラレヘシ是其信心ニ眩惑ス  
ルヨリ隱謀ヲ企テタルト發覺シタレハナリ則  
チ日本將軍ノ大ニ隱匿スル諸件ヲ探索シ制令  
アルヲモ顧ミス確乎トシ初心ヲ改メス尚年々  
マニルハヨリ羅瑪僧ヲ日本ニ送り且ソイ、ソ



イトニ属スルニ日本人ヲ送ラントス。是帝ニ日  
本語ヲ領解スルノミナラス。更ニ能ク國人ノ心  
情ヲ熟知スルヲ以テ。或ハ追捕セラルモ遁逃ノ  
路アリ。又何ノ地ニ在ルモ。外國僧ノ如ク顯著ナ  
ラサルヲ以テ。次第ニ人心ヲ煽動シ。他日一劇場  
ヲ演セントス。此ノ如クニ。ノ殘刑者ノ死灰ヲ再  
燃セン。トヲ望ム。將軍自ラ顧ミルニ其冠ニ於テ  
豈ニ少危ナカラシヤ。況ンヤ諸侯之ニ傾心スル  
者アリ。故ニキリステ。及ヒ葡僧ノ処置ニ  
於テ頗ル困苦スル所アリ。其一揆争乱ヲ誘起ス  
ル。勿ラシトヲ慮テ。平穩ヲ謀ルニ出ツル所ナ  
リ。

十二月二十五日。石川兵三右衛門殿ヨリ書ヲ寄  
ス。エルセラク。本月九日大阪ニ著セリ。五日ヲ出  
テ。又シテ將軍ニ見参スヘシ。盖シ將軍ノ嚴命ニ  
テ。尤モ急行ヲ要スレハナリ。且ツ從來為スカ。如  
キ進物ヲ捧クルニ及ハストナリ。石川更ニ証言  
ス。汝等更ニ一回ノ紀問ヲ経ハ。後速カニ放免セ  
ラルヘシト。

翌日吉兵衛。及ヒ八左衛門マニケベヨリ聞ク。



アリ。阿蘭人旅舎少主人ノ家ニ轉寓スヘシト。蓋シ當家ヲエルセラクノ旅舎ト爲シカ爲ナリ。是筑後殿及ヒ三良左門ノ命ニ依ルト。將軍及ヒ執政ハ早クエルセラルヲ見ントヲ望ム。韃靼行ノ事果シテシカトプ及ベレレヘルド屢述所ノ如クナルヤヲ知ラシカ爲ナリ。日暮荷蘭人新居ニ送ラレタリ。大ニ驚クハ直チニ卧房ニ入ラレタリ。狭窄ナリ故ニ旅舎ト云フヨリハ牢獄ト云フヘキニ似タリ。然レ凡其家族等接遇懇切ニシテ日本酒ヲ供シテ慰メタリ。

記官吉兵衛及ヒ八左門訪ヒ来リ。竊カニ一書ヲエルセラクニ寄セントヲ勸ム。シカトプ及ヒベレレヘルド大ニ訝ル。此ノ時ニ於テ何ノ爲ニ此言ヲ爲スマ。其心虚實表裡察スルヲ得ス。既ニメ悟ル所アリ。則テ韃靼行ニ方テ此意外ノ厄難ニ遇フ所以ヲ。短簡ニエルセラクニ報セント依テ書ヲ裁セントスルニ方テ一官吏ヨリ命アリ。阿蘭人直チニ江戸外裁判所ニ赴クヘシト。途上將軍ノ官衙ニ勤仕スル役員ヲ見ル。皆金銀ヲ縫箔シタル將軍ノ記章ヲ佩フ。絹紐ニテ胸ニ



掛ケ其端ニ銅アリ。記章ハ黄色地ニ五線アル六  
 銀星アリテ。長圓形ノ周圍ニ同距離ニ現ス。周縁  
 ニ金點アリ。此六星ノ中間ニ執政四人ノ記章アリ。  
 又ウインベル帆播ノ上端ニ立ツル先キノフリ長キリ。其尖端ニ非常ニ長キ裂アリ。裂ハ黄色ナリ。他  
 端ニハ六銅環アリ。四角ナル區内ニ將軍ノ記章  
 アリ。四隅ニ執政ノ記章アリ。如何ナル町村及  
 ヒ小村ニテモ。此記章ヲ所持セサル所ナシ。  
 余唯其最ナル者一ニヲ掲ケ記シ証明スヘシ。大  
 阪ニテハ四角ノ地ニ一ノ金野豚頭ヲ現ス。其上

ニ將軍ノ記章アリ。四箇ノ銀木ノ切アリ。斜ニ置  
 キ四隅ニアリ。更ニ大阪城及ヒ港ヲ監護スル重  
 職ノ記章アリ。京都ノ記章ハ長八角ナリ。中間半  
 月ヲ現ス。左側ニ日本木トサンダグビナングアリ。  
 右側ニ海螺アリ。下ニ三星アリ。此海螺ハ内裡ノ  
 記章。及ヒ將軍ノ記章ノ上ニアリ。衆名ハ有名ナ  
 ル日本海灣ニアリ。宮ニ對向ス。其記章ハ三圓球  
 及ヒ同數ノ長キ木軸アリ。圓面ニアリテ相排列  
 ス。周圍ニ町奉行監察ニ執政ノ四記章アリ。塚ハ  
 分裂セル簇ナリ。記章ノ地ハ暗緑ナリ。金燄ニテ



區別ス。白色濶所五角ナリ。中斷ノ円輪アリ。羊黑

羊白將軍ノ記章アリ。更ニ三星アリ。

抑モ記章ハ簇ニ附スル粧飾ナルモ。保証スルノ

極印ナルモ。其因テ表ルト旧シシセロカタリナ

ニ教諭シテ曰ク。レレチユリユス。記章ヲ附スル

ノ書ヲ共ヘテ。是記章ノ旧シキヲ知ルヘシ。此ノ

如キ記章ニハ。羅瑪人ハ蠟ヲ用フ。然レ凡小亜細

亜ノ民ハ。粘土ヲ用フ。是クレタ島今カンジニア

多ク産スル所ナリ。是称呼ニハ各種ノ説アリ。此

ノ如キ記章ハ。旧羅瑪ニハ大ニ古代ヨリ存スル

所ナリ。何トナレハタマルモ。自ラ記章環ヲジユ

ダノ血辱アル娼妓ノ價ノ為ニ投共セリモセス

ヨセブヲ説テ曰ク。バラコ己レノ手ノ環ヲ脱シ

テ。ヨセブノ手ニ施セリ。蓋シ王書ヲ確証スル為

ナリ。ヘシキウス及ヒイサキウスツトセス証言

ス。最古ノラセムモニールハ彫刻術ノ起ラサル

以前ニハ。喪蝕ノ一木片ヲ以テ記章トスルノ習

慣アリタリ。

阿蘭人新旅舎ニ於テ。僅カニ安寧ナリ。翌日訊官

藤左卫門及ヒマニケベ。再ビ江戸外ノ地ニ導キ

蘭人ノ証言



タリシカリプ及ヒベレヘルドノ外囚人等  
内門前ニ立ツ兩人ハ呼ヒ込レタルニ其偃息所  
ノ非常ニ立派ナルニ驚駭セリ一隅ニ公廳ニ入  
ルノ口アリ之ニ入ルニ非常ニ精巧ナル廊下ア  
リ執政列坐セリ其華美壯嚴ナルヲ政羅已諸候  
ノ企テ及フヘキニアラス蘭人之ニ進入シタル  
ニ坐ヲ命セリ

筑後殿曰ク船主及ヒ商官ヨ目今事實ヲ明言セ  
ヨ何トナレハエルセラク到着スル日聞ク所ア  
ランニ其言或ハ齟齬スルヲアランニハ汝等苛  
責ヲ免カル可ラサルナリシカリプ答我輩述ル  
所決シテ詐欺アルヲナシ則チ曾テ手記呈スル  
所ノ如シ敢テ尊威ヲ瀆スヲナシ此時筑後殿次  
件ヲ述フ本月八日九日ニ和蘭旅舎ニ於テ貴人  
豊後汝ニ告クル所ヲ記臆スルヤ汝輩日本北隅  
ニ於テ船内貿易シタルニアラスヤ其船東方ニ  
行クト思フヤ順風ナル為ニ日本北岸ヨリ瓜哇  
ニ向ントスルニアラスヤ何ノ処ニ帆ヲ卸シタ  
ルヲ知ラスヤ數日前松前岸ヲ経テ出帆セシト  
議シタルニアラスヤ



ベールレーヘルド答テ曰ク此ノ如キトハブレ  
 ケンス船中ニアリタルヲ知ラス故ニブレスケ  
 ンス船人ハ日本人ト貿易シタルトナシ是恐ラ  
 クハカストレコムニ於テ為シタルナルヘシ是  
 船ハ五月不幸ニ夜中不知ノ國ニテ暴風ノ為  
 ニ漂流セリト假想シタル所ナリ此船亦東方ニ  
 進ミ日本南東角ヲ經テ九月中旬ニハ定信風ヲ  
 得ントシタルナルヘシ然レハカストレコムト  
 ブレスケンスト共ニ伯帶比亞ニ帰着スルノ後  
 ニ非サレハ貴官ヲシテ領解セシムルニ足ルヘ  
 キ確証ヲ述ヘ難シ

以上記スル所ノ諸問ノ外筑後殿更ニ次件ヲ加  
 フ汝輩船主及ヒ高官ヨ汝ノ隊ハ土民及ヒ水夫  
 ヨリ成ルト云以テ阿蘭國王ノ葡王ヲ補助シタ  
 ルモ其報礼ノ厚カラサルカ為ニ葡國ニ向テ騷  
 動ヲ企テ隨テ國內争乱ヲ誘起スルノ隙ヲ生ス  
 ヘキニアラスヤ此法則ニ於テ制限ヲ設ケサレ  
 ハ汝輩商業上ニ如何ノ結果ヲ為サンヤ荷蘭人  
 ハ貨物ヲ葡人ニ賣ラサルヤ荷蘭貨物ノ外色上  
 ニ十字及ヒキリスカラスセンヲ現スルハ何ヲ



徴スルヤバテルノステル及ヒ木十字ヲ貨物中ニ存スルヤ

ベイレールヘルド次テ答テ曰ク。葡國ト和蘭戦争ノ事ハ我輩伯帶比垂ヲ出帆スル前ニハ未夕聞カサル所ナリ。又葡人ト蘭人ト貿易スルニ方テ何品ノ可否アルハ。西民互ニ相知ラサル所ナリ。又荷物上包ニ十字記章ヲ現スルハ。唯此包内阿蘭貨物存スルヲ標スルノ記章ナルノミ。彼ノ木十字ハ。ハテルノステル其外凡ソ信心ニ関涉スル品ハ。船中絶テ之ヲ所持セス。

ベイレールヘルドノ詞僅カニ終リタルニ。筑後殿更ニ問フ。汝ノ神ハカスチリアーネン。及ヒホルトガル人ト同物ナルヤ。其名称如何。誰カ之ヲ見誰カ之ニ交ハリタルヤ。何ヲ以テ之ヲ眞神ナリト信スルヤ。

日本人ノ信心ヲ通見スルニ。愚蒙ナル叙教ニ迷フ。明テカナリ。蓋シ不朽ノ神ノ精神ヲ変シテ。腐朽スヘキ人ノ像ト同シトス。此ノ如キ汚穢ナル學派ハ。アールト口ホモルビテ。ンノキリスラントムニアリ。大抵アリウス。及ヒニセーレンセコン



シリノ頃ナリ其首唱者ハアウジウスナリ他  
ハ非難ス可ラサル行状ノメソボタミソニ出ツ  
其始ニ於テ己レノ四肢ヲ神ニ適合セントス神  
トハ其語意四肢ヲ言フナリトセリ久シク寺院  
ニ逗留シタレテ終ニ排除セラレ而メ一新部ヲ  
設ケテ祖先ヨリ多ク事ヲ為シタリトセリ殊ニ  
其テオピリユスビスコフプラアレキサシデリ  
オンニ又エビパニウスヲサラミナニ導ケリ然  
レテエビパニウスハ其教ヲ説クヲ緩ナルヲ以  
テ厚信ノ学徒ヲ満足セシムルニ至ラス

實ニ此ノ如キ愚昧ナル説ハ弋智アル叙教徒ニ  
悖ルト云フヘシラクタシタラスハ曰學者ベタ  
ゴラスヲ証ス曰ク彼焉ゾ神ノ如クナルヲ得ン  
ヤ神ハ無形ノ精神ナリトプラト曰ク神ハ世界  
萬物ニ超絶セリ自ラ大全權ヲ有シテ一缺典ナ  
シマクロビウスハプラト神ヲ説クニ何ナリト  
云フヲ得ス唯神ナリ是人ノ知ヲ得ヘキ者ニア  
ラス抑モ神ハ第一原因ト云フカ如シ萬物ヲ造  
為スル原基ナリ又有名ナル説法者シセロ其教  
則中ニプラトノ言ヲ攀ク曰ク余謂ク誰カ神ナ



リヤト言ハンヨリハ寧ロ誰カ神ニアラスヤト  
言フヲ勝レリトス汝余ニ問フニ神ハ如何ナル  
ヤト言ハン片余シモンニデスヲ記士ト為スヘ  
シ無理非道ナルヒロ曾テ此人ニ就テ此事ヲ  
問ヘリ曰ク之ヲ考フルト一日ヲ待テ翌日之ヲ  
問フ曰ク更ニ一日ヲ待テ此ノ如クスルト數日  
ニ及ヒタルヲ以テヒロ怪テ其故ヲ問フ曰ク  
余此事ニ昏シ故ニ多日考ヘサルヲ得ス又セネ  
カリユシリウスニ告テ曰ク神ハ近キニアリ汝  
ノ上ニアリ汝ノ中ニアリト且ツ曰クリユシリ

叙言

ヨ神聖ナル神我身中ニアリ我所業ノ善惡ヲ鑒  
シ又之ヲ記ス彼為スノ後余之ヲ為スナリ神ア  
ルニアラサレハ誰カ善事ヲ為ンヤ  
戈智アル釈教人ハ神ノ完全ナル威徳ヲ知り分  
テ三種トス第一ハ不朽ナル事其期限ヲ知ラズ  
其生命無限ナルハ自然ノ光明ニテ知ルヘシ萬  
物ニ鑒臨ス固ト無中ヨリ生シ一タヒ成ルニ及  
テハ復タ終期ナシ第二ハ諸災難ヲ遁ル事無限  
ノ力徳ハ神ノ固有スル所ナリ抑モ神ノ本体ハ  
集合ノ者ニアラス若シ夫レ集合ノ者ナリトセ



ハ則チ之ヲ集合物ト言ハンノミ固ヨリ神ヲ集  
合スルニ足ルノカアル者ナレ。若シ之アリトセ  
ハ則チ集合ノ神ヨリハ先ヅ存スヘキナリ。但シ  
神ハ萬物ノ最源ナリ。萬物皆之ニ根據ス。神ハ本  
体ト偶然トヨリ成ル者ニアラス。況ンヤ形体ト  
精神トヨリ成ル者ナランヤ。學士アナフゴラス  
ハ有名ナルソコヲテスノ師ナリ。故ニ彼ヲ知ル  
之ヲ神ト称セスレ。唯精神ト称ス。萬物皆此精  
神ヨリ生スルカ如シ。

神恩ノ無比ナルヲ。功德ノ大ナルヲ。萬民ノ為ニ  
代テ罪科ヲ引請クルヲ。抑モ言ヲ俟タサルナリ。  
然ルニ何ソ此ノ如キ輕忽ナル問ヲ設クルヤ。地  
上ニ在テ人ニ交リタル見ルヘキノ神ト。豈ニ比  
倫スヘキ者ナランヤ。ベールレヘルド筑後殿ニ  
答フルニ此言ヲ以テシ。更ニ曰クカスチリアー  
ネン。及ヒ葡人ト。蘭人ト共ニ三神ヲ知ル。然レ氏  
其肖像ヲ画クニ。老人。少年。及ヒ鳩ヲ以テス。是蘭  
人ノ大ニ耻ヅル所ナリ。神ハ不朽ノ精神ナレハ  
人誰カ之ニ擬似スルヲ得ンヤ。肖像ニモ想像ニ



モ及フヘキ所ニアラス。又神ヲ称スルニヘブレ  
イセ語及ヒ希臘語ニ自ラ数名アリ。蘭人ハ之ヲ  
ゴツトト称ス。父子及ヒ君精神ノ意ナリ。不可解  
ノ精神ナレハ固ヨリ之ヲ見ル能ハス。人尚自ラ  
己レノ精神ヲ見ルヲ得ス。他人亦決シテ之ヲ見  
ルヲ得サルナリ。然レモ萬物ヲ造為シ保存シ。又  
支配スルヲ見テ。此見ル可ラサルノ神ヲ見ルナ  
リ。神子ノ称アルハ猶人類ノ童身ト云フカ如シ  
ベテシヘム中ニ出現シタルキ如何ナル形ニテ  
眼前ニ出タルヤ。アレステナニ遊歩シ。大ニ怪力

三

ヲ現シ後ユルサレム外ニテ十字架ニ死セリ。是  
信心者ニ代テ其罪ヲ負擔スルナリ。此類ノ事ヲ  
記スルニ書アリ。一ハヘブレイセ語ニテ。プロベ  
イテンノ記スル所。一ハ希臘語ニテ。アポステレ  
ン記スル所ナリ。此プロベイテン及ヒアポステ  
レンハ非常ノ信者ナリ。神ノ無限ノ眞實ヲ教諭  
セレ所ナリ。此ニ書ハヘブレイセ語及ヒ希臘語  
ニ通曉ナル學者。和蘭文ニ訳セルアリ。  
筑後殿次テ曰ク。汝ノ祭日ハ葡人及カステリア  
ノネンニ同シキヤ。之ヲ何ト称スルヤ。蘭人亦斷



食日アルヤ。其僧侶ハ西班牙式ニ倣フヤ。僧侶ハ  
何様ナルヤ。年給ヲ國庫ヨリ得ルヤ。其所説國事  
ニモ及フヤ。阿蘭王ハ超絶ナルモ。唯國民ノミヲ  
管轄スルヤ。

船主シカリ。フ曰ク。阿蘭人ハ西班牙人ト同シク。  
第七日ニ方テ一日諸工職及ヒ商業ヲ休止シ。各  
人所信ノ寺院ニ詣ス。止ムヲ得サルノ不幸アレ  
ハ。断食日。瞻礼日ヲ定ム。一心ニ救助ヲ祈念スル  
ナリ。此ノ如キノ外ハ。定時ニ非サレハ断食スル  
ヲナシ。誓約ハ決シテ為サ、ルナリ。又阿蘭學者

ハ説教スルヲアリ。此人語法ニ達シ。羅瑪。希臘ハ  
ブレールラセ語ニ通ス。如時ヨリ學事ヲ研究シ。公  
然タル寺院ニ於テ經典ヲ講習シ。其學ヲ所ト書  
中記スル所ト一致スルヤ。檢ス。國庫ヨリ給料  
ヲ請ケ。位階ニ上ル。衣服ハ他ノ紳士ニ同シ。國庫  
ヲ言フヲナシ。阿蘭王ハ西班牙人ト數年間兵ヲ  
構フヲ以テ。各地方ヨリガラーベンハーゲニ集  
會事ヲ議ス。合衆七國ニ於テ和蘭ヲ首魁トス。  
筑後殿更ニ曰ク。若シ汝ノ神ト西班牙神ト同物  
ナラハ。信心ノ別ハ何ノ邊ニアルヤ。而シテ何レカ



尤モ舊キヤシカリーポ曰ク蘭人一神ヲ奉ス則  
 チ真全ノ神ナリ然レ氏蘭人及ヒカステリア  
 ネシハ地ニ於テハゴツト天ニ於テハサシテ  
 及ヒサシチネニヲ尊奉ス此ニ神ハヘイラン  
 ニ神聖ノ事業ヲ為サシメタル者ナリ則テ其不  
 死ヲ求メリ又蘭人ノ信心ハ葡人ヨリハ舊シ何  
 トナレハブルペケセトアボストリセノ二書ヲ  
 合併シテ教テ偏信セサレハナリ蘭人ノ葡教ヲ  
 禁セサル間ハ葡人亦公ニ蘭者ニ於テ説法セリ  
 然レ氏蘭教ハ葡教ヨリ前ニ存立スル所ナルヲ

三〇

以テ一時新教ヲ信シタル者モ復タ舊教ヲ執リ  
 年月ヲ経ルニ隨テ新教全ク止ニ唯舊教ノニ愈  
 盛トナレリ  
 筑後殿最後ノ問ニ曰ク瓜哇ハ大島ナルヤ誰カ  
 之ヲ領スルヤ住民幾許アルヤ其名称如何船主  
 シカリーポ答瓜哇ハ分テ大小二島ト為ス大島ハ  
 シヤンダ市ニテ蘇門答刺ト區分ス其長百五十  
 里廣稍之ニ減ス但シ不同ナリ土人ノ話ニ中道  
 ニ一流アリ凡ソ之ニ投スルノ百物皆石ニ化ス  
 トマタラハ阿蘭ノ讐敵ナリ東邊ノ大部ヲ領



ス。バンタムエハ久シク東印土商會ト結合シ。廣  
クシエングダ街ヲ領ス。伯帶比垂ニ部ノ間ニ東印  
土商會ノ社長ハ。合衆阿蘭會社ノ投標撰ニ當ル  
者住ス。瓜哇ノ住人ハ。猛勇ニノ親切ナラス。強壯  
ニノ粗暴ナリ。面扁。腮廣ク高シ。眼膜大ニ。眼小  
ナリ。髭少ナシ。髮黑色ニ。短カシ。皮膚黄色ナリ。  
シ。クリ。パ。及ヒ。バ。レ。レ。ハ。ル。ド。退去ヲ命セラル  
外方ニ誘導シテ前ノ舟士等ノ所ニ出タリ。衆皆  
愛前シテ我輩ヲ待請ケタリ。且ツ見ル日本囚人  
三十四人。或ハ手械ヲ具スルアリ。或ハ兩臂ヲ外

套下ニ緊縛スルアリ。此群集ノ者皆惡業ヲ行フ  
タル為ニ捕ハルト見ユ。彼等二人宛前ニ我輩出  
タル所ニ呼込マル。蓋シ糾問セラルナリ。マニケ  
バ更ニ曰ク。今裁判所へ呼ハレタル日本囚人ハ  
皆キリスト宗徒ノ生ム所ナリ。久シク入牢シ。或  
ハ時苛責拷問セララルヲ以テ。其頰瘦。眼凹シ。顔色  
憔悴シタリ。其容活人ニ似ス。殆ント鬼ニ似タリ。  
此時ハ左工門ノ僕信ヲ通ス曰ク。使節ユルセラ  
ク。明日午時從者ト共ニ江戸ニ着スヘシト。是阿  
蘭人旅舎ノ子ヨリ。之ヲ筑後殿ニ報ス。此信ヲ得



テ日本執政ハ集議ス。明日即十月一日シカープ  
ハ家僕ニ托シテ執政ヨリ糾問ヲ請タル事件ノ  
大畧ヲ記シタルニ通ノ書ヲ吉兵工ニ囑シテ。病  
カニエルセラケニ連セシム  
午時エルセラケ江ノ島ニ着ス。因レタル阿蘭人モ  
設官藤左工門及ヒマニケベモ未タ問ハルニア  
ラサレハ。談話スルヲ得ス。故ニ翌日再ヒ筑後殿  
ノ邸ニ招カレ尋常ノ場所ニテ待ツ。凡ソ一時  
許茲ニ白色ノ一人坐セリ。年齢四十歳至五十歳  
間ナリ。立派ナル衣装ナリ。方面ニノ褐灰色ノ髪

アリ。威儀端正。阿蘭ノ正シキ説法者ニ異ナラス。  
嚴重ナル手枷ヲ具ス。之ヲ脱ス。筑後殿ノ近臣ト  
大ニ懇信ナルニ似タリ。此人非常ニ早記シテ正  
理ヲ述フ。身体運動異ナラサルニアラス。マニケ  
ベ此人ノ事ヲ説ク曰ク。京都ニ住シテキリスト  
徒六百人ヲ清度セリ。故ニ之ヲ拷問スル為ニ久  
時入牢シタルナリト。  
此時筑後殿ノ秘書記紙筆ヲ携テシカープトベ  
レレヘルドトノ間ニ来リ。曰ク船長及ヒ下高  
官ヨ。上官ノ命アリ。往日伯帯比垂ヲ出帆シテヨ



リ南部ニ至ルマテノ旅行ノ事實ヲ述フヘシ前  
日述ル所ニ於テ若シ遺漏スルヲアラハ今之ヲ  
述フヘシ何トナレハ今日記スル所ハ帝ニ使節  
ユルセラクノミナラス尚又今呼寄セタルカス  
トレコムノ船主ノ告ル所トテ比校スヘケレハ  
ナリ若シ事實齟齬スルヲアレハ帝ニ汝輩入牢  
シ生命ニモ關係スルノミナラス更ニ出島ニ在  
ル東印土商會ニモ大害ヲ及ホスヘケレハナリ  
シカノ答ノ我輩尋常ニ答フルニ常ニ事實  
ヲ以テス及再ニ故ニ少シモ厭フナシ

秘書記曰クブレスケンス及カストレコムハ何  
ノ月日伯帯比垂ヲ出帆シタルヤ此ニ船更ニ他  
船ト共ニ出帆セシヤ何ノ日テルナリテニ投錨  
セシヤカストレコム及ヒブレスケンス間時ニ  
着岸セルヤ伯帯比垂ヨリテナルニ至ル  
ニ若干時日ヲ費ヤシタルヤテルナリテニ停  
泊スルヲ幾日ナルヤ同時ニ此地ヲ抜錨シタル  
ヤ何ノ処ニテ何ノ時ニカストレコムヲ見失ヒ  
タルヤ其後カストレコムヲ見當ラサリシヤカ  
ストレコム何ノ処ニテ難船シタルト思フヤ日



本トテルナリテトノ間ニ海岸ヲ見サリシヤ  
 カストレコムレヲ求ムルニ何ノ処ニ向ヘルヤ何  
 ノ時ニブレスケンズル日本ニ着岸セルヤ何ノ  
 時ニ南部ニ入テ水ヲ求メタルヤ何ノ時ニ退去  
 セルヤ何ノ時ニ再ニ南部ニ来リタルヤ  
 バレレヘルド答本年二月三日カストレコム  
 及ロブレスケンス伯帯比亜ヲ答シラルナリテ  
 ニ地方ニ向フ更ニ韃靼地方ヲ探ラシ為ナリカ  
 ストレコムノ外類船ナシ同時ニマレレラ過  
 キ四月四日ヨリ五月十九日マテ四十五日間常

ニ同伴セリ然ルニ夜中暴風ニ逢テ不知ノ地方  
 ニ漂流セリ大畧三十四度ノ所ナリ是所ニテカ  
 ストレコムヲ失セリ而シテ不意ニ一地ニ着岸セ  
 リ蓋シ何ノ地タルヤヲ知ルニ由ナシ大ニ船体  
 ヲ破損シタルヲ以テ岸ニ着シ翌朝之ヲ退クフ  
 七里故ニ尚何ノ地タルヲ知ラステルナリテニ  
 ト此地トノ間ニ於テ絶テ一地ヲ見ヌ又カスト  
 レコムニ別レテ以来日本ノ北東隅ニ来リ彼ヲ  
 求メントス是タルナリテニテ曾テ相約スル  
 所ニ因ルナリ日本海岸ニ着セシハ五月二十九



日ナリ。十二日ノ後南部港ニ入ル。然レト翌日鉄  
 乏スルノ水ヲ船内ニ入レテ。直チニ東方ニ向テ  
 出帆セリ。日本南東隅ニ至ラシカ為ナリ。之ヲ距  
 ルヲ殆ント二百里ニ及ヘリ。然ルニ南風強烈ナ  
 ルニ逢テ。更ニ流勢ノ急駛ナルニ乗シテ。北方ニ  
 流サレタリ。則チ日本地方ヲ見ル。思考スルヨリ  
 ハ更ニ遙カニ北方ニ至レリ。漂揺スルヲ四十八  
 日止マテ得ス。再ニ南部港ニ入りタリ。但シ前回  
 此地ニテ必須要品ハ備フヘク。又上陸ヲモ許サ  
 レタレハナリ。此許可ヲ得テ上陸シタルニ。何リ

計シ不意ニ囚虜トナリ。江戸ニ引カレ。此危難ニ  
 陥リタリ。

筑後殿秘書記更ニ問テ曰クカストレコム船長  
 及ニ高官ノ形容長短。年齢及ニ姓氏如何曾テ日  
 本ニ来リシヲナキヤ。エルセラク。彼ヲ知ルヤ。ブ  
 レスケニス。韃靼ニ貿易スルハ。誰ノ命スル所ナ  
 ルヤ。汝何ノ時何ノ処ニテ。エルセラクニ逢タル  
 ヤ。彼又ブレスケニス。出帆ノヲ知レリヤ。  
 シカ。コープ答カストレコムノ船長ハ。マルチンゲ  
 ルリ。ラズゲーン。テス。リス。頗ル長シ。髮髭褐色。歳四



十一。船主ボーテルウイルヘムスグリーンクネク  
 ケーンス。短矮ナリ。大畧二十六歳。高官アブラハ  
 ムビタヒーンハ。細長シ。黄毛ナリ。髭ナシ。二十三  
 歳ナリ。又デフリースハ。一二年前日本ニ来レリ。  
 夕ホクケーンズ亦然リ。甲ハ當時船具預リ役ナ  
 リ。乙ハ番兵ナリ。但シボタヒーンハ日本ヲ知ラ  
 ス。エルセラクハ必ラスマルチンデフリースラ  
 知ルヘシ。嘗テ同シク臺灣ヨリ。伯帯比亞ニ航シ  
 タレハナリ。ボタヒーンヲモ見タルヘシ。然レモ  
 クネクケーンズハ未タ知ルニ由ナカルヘシ。但

シブレスケンズニ何品ヲ積ヒタルヲ知ラサル  
 ヘシ。印土産及ヒ改羅巴産ノ貨物各種ノ小件ナ  
 レハナリ。是東印土商會ヨリ。鞆鞆ニテハ何品ヲ  
 尤モ望ム所ナルヤヲ探リ試ムル為ナレハナリ。  
 然レモ其最ナル者ハ胡椒及ヒ羅紗ナリ。又棧葦  
 ハ伯帯比亞出帆前ニハ日々エラクニ會話  
 セリ。然レモ我貨物ヲ詳知スルヤ否ヤハ今確言  
 スルヲ能ハス。彼印土領事ト懇交フレハナリ。  
 後秘書記更ニ一問ヲ設ク。カストレコムニ乘ス  
 ル鞆鞆人形状。年齢。及ヒ名称。又鞆鞆ニテ新ニ買



易スルニ方テハ何等ノ職務ヲ取ラシムル者ナ  
ルヤ其答此韃靼人ハダヒツトカシユル称スニ  
十一歳ナリ褐色ニ短髪ナリ商品煤ヲ職ト  
ス秘書記對話ヲ止メ最前ヨリノ應接ヲ手記シ  
正ルセラクハブレスケンズ及ヒカストレコム  
ノナルナランニ向テ出帆シタル時日ヲ忘レ  
サルヤヲ問フシカープ及ヒベールド之ヲ確  
証ス秘書記ハ手記ノ草案ヲ持テシカープ及ヒ  
ベールールノ坐スル殿中ニテ長崎奉行三  
良左エ門ニ示ス彼喜色アリ故ニ頭ヲ低テ地ニ

長崎奉行  
三良左エ門  
ニ示ス

接ス此日夜ニ入り阿蘭人帰舎スヘキヲ命セラ  
ル後三日エルセラクニ面會スルトナシ唯彼下  
高官バウリエヌコルネリスアリンヘールト共  
ニ日本執政ニ謁シ大ニ饗應ヲ請タルノミ  
十二月五日サ蘭囚十人筑後殿ノ邸ニ至ル船主及  
ニ下高官ハ内ニ入り他ノ舟士ハ門ニ待ツ是ヨ  
リ前ニエルセラク赤從者ヲ伴テシカープ及ヒ  
バールールヘルドヲ尋ヌ舟士ハ隣室ニ待ツヲ告  
クエルセラク之ニ入ルニ相逢ハス日本官吏ノ  
間ヲ過テ室ヲ經テ直チニ糾問所ニ出タリ茲ニ



ハ筑後殿及三良左工門殿及ヒ多員ノ日本高官  
先ツ列坐セリ一ニ公事ヲ了スル後ヒカープ及  
ヒバーレーヘルドヲ呼ヒ入ル筑後殿問フエル  
セラクレヨ此人ヲ知ルヤ彼ハ誰ナルヤ称名セヨ  
此人ブレスケンスニ載テ鞆韃ニ向テ貨物ヲ輸  
送セシメタリヤ葡僧ヲ日本ニ送り又此國ニ害  
アルヘキヲ謀リタルニアラスヤエルセラク  
答尊敬スヘキ筑後殿ヨ余此船主及ヒ下高官ヲ  
熟知ス甲ハヘンリキコルネリスズインシカ  
プナリヒハライルヘムベレーヘルドナリ

二月三日伯帶比亞ヲ出帆セリ僧ヲ送ル為ニア  
ラス葡人ハ阿蘭人日本ノ障碍トナラサル鞆韃  
ホレーサンダニテ新ニ互市場ヲ開カンカ為ナ  
リ此言確實ナルヲハ帝ニ余ノミナラス年々長  
崎ニ至ル東印土商會ノ各船モ共ニ保証スル所  
ナリ此ノ如クナリシカバエルセラクニ告テ曰  
ク明日將軍或ハ執政ニ手記ヲ以テ之ヲ保証ス  
ベシト謹テ之ヲ領セリ  
筑後殿及ヒ三郎左工門殿エルセラクヲ門ニ送  
ル是ニハ他ノ葡人ノ待ツ所ナリ彼エルセラク

工部  
三郎  
左門  
殿



ヲ呼テ曰ク汝等諸人ヲ放免スト此語如何ナル  
感動ヲ起スヤ言フ可ラス彼輩時々刻々各様ノ  
方法ニテ我輩ニ死ヲ加ヘントシ千苦中一樂ナ  
シ残酷ナル日本人ノ為ニ不幸ノ死ヲ取ルハ哀  
惜ニ耐ヘストスル所ナリ抑モ訊官ノ訊スル所  
親切ナルヤ或ハ粗暴ナルニ因ルヤ又和蘭人語  
法ノ拙ナルニ因ルヤ日本人性急烈ナレハ此細  
ノ失過アレハ則チ死ヲ招クニ足ル胸ニモ眼ニ  
モ涙ヲ滿ツルノミ一時ノ歡樂モ忽チ変シテ悲  
哀トナルヘケレバ此放免ノ語モ未タ以テ果メ

正三ノ從者  
ハ四人ノ多キ

安心スヘキニアラスト虽尚深考シテ日本式ニ  
テ頭ヲ地ニ接シテ筑後殿及ヒ三良左衛門殿ニ  
對シ囚人ヲ遇スル親切ナルヲ謝セリ  
囚人ハ国人ノ為ニ幸福ヲ得テ放免セラレタレ  
氏筑後殿ハエルセラクヲ呼ビ少話ノ後再び從  
者ノ所ニ来リ十四人ハ町ヲ通シテ整列シテ前  
行シ使節ノ從者ト混スルヲ勿レト命セリ  
エルセラクハシカクア及ヒベレレヘルドヲ  
招キ夜食ヲ供セリ其旅舎ニ相會シテ共ニ歡ヲ  
述フ卓上各種ノ地圖ヲ排列シ旅行中及ヒ南部

正三ノ從者  
及ヒベレレヘルドヲ



港ニテ捕ハレシ以來ノ路程ヲ話ス食後シカ  
プ及ヒベールヘルドハ其從者ヲ伴テ新旅舎  
ニ轉移セリ是エルセラクニ廣所ヲ讓ル為ナリ  
尚明日ノ再會ヲ期ス允ソ衣服夜具禦冬ノ要品  
ヲ備ヘリ

此時一訖官正助入来リ船主及ヒ下高官ヲ引テ  
新旅舎ニ赴カンヲ勸ム是ニ於テエルセラク  
將軍ノ居城ニ參謁スルノ報ヲ待タシム筑後殿  
及ヒ三良左エ門殿ヨリ一使ヲ賜ハル則チ直チ  
ニ之ニ謁ス夜ニ入りシカープ及ヒベールヘ

ルドハエルセラク殿中ニテ如何アリシヤ家ニ  
歸リタルヤヲ案ス正助ヨリ聞ク所ニテハ二時  
ノ後エルセラクハ歸ルベシト此説モ信スヘキ  
ニアラスエルセラク尚未夕歸ラス是殿中ニテ  
再應問答アリタルナルヘシ阿蘭人不幸ヲ免カ  
レントスルニ方テ何トカ之ヲ遅滞スル者アル  
ヤ苦慮愈増加ス蓋シ終夜免許ノ一條エルセラ  
クノ周旋ニテ如何ナリシヤヲ聞ク所ナケレバ  
ナリ

此憂苦中忽然トソ地震ス屋傾レ柱倒レ四壁左



右ニ蕩搖シ。動搖劇シキ所ハ或ハ破レ崩ル。夫レ地震ハ之ヲ道理上ニ求メ。又實驗上ニ徴スルニ必ラス定則アリ。春及ヒ秋ニ於テス。此時蒸發尤モ盛ナレハナリ。夏時ハ温熱ノ為ニ地負疎開シ。地下ノ氣ヲ漏スニ便ナリ。又冬時ハ地中閉塞シ。且温度微弱ナレハ大震ヲ起スニ力足ラサルナリ。地震ニ三種ノ別アリ。最モ重大ナレハ孔ヲ開キ。家屋村落市街全島及ヒ全地方ヲ埋没スルニ至ル。往時有名ナリシ場所及ヒ人民所々ニ潛匿シ。其深サ測ル可ラス。其残酷言フ可ラス。則チ日

三

本ニハ大坑及ヒ洞孔多シ。又上下ニ升降スル地震ハ近傍ニアル萬物ヲ彼此ニ移轉ス。故ニ悉皆簸搖スルナリ。最輕度ノ地震ハ地面彼此ニ震搖シ。猶船舶ノ波濤ニ漂搖スルカ如シ。今回ノ震ハ此種ナリ。

地震系徴

古来言フ所。又今回驗スル所ニテモ亦然リ。夫レ地震ノ少前ニハ氣中極テ靜穩ナリ。是風ノ地中間隙ニ閉鎖スレハナリ。空氣ハ年ノ時季ニ比スレハ冷涼ナリ。又長キ薄雲線條ヲ為シテ氣中ニ浮遊ス。海上非常ニ鳴動ス。而シテ天上ニ風アルニ



アラス井水汚臭ヲ帶ヒ。硫黄味ヲ含ム。此硫黄分  
ヲ徴トシテ。學士ゲラルドホレウスハ地震ノ原  
因ヲ地下ノ火ニ歸ス。是地下山下島下海底彼是  
ニ通スル穴ニ存スル所ナリ。故ニ屢數里外ノ土  
地ヲ動搖スル。トアリ。帝ニ村落市街地方ノミナ  
テス。更ニ地球ノ一部ヲ潰崩スル。トアリ。此地下  
ノ火ハ大ニ硫黄氣ヲ含ミ。火氣ヲ發スルナリ。是  
實驗ニテ明知スル所ナリ。地震ニテ地面破裂ス  
ル。トアリ。此裂隙ヨリ恐ルヘキ焰ヲ發ス。又地震  
前ニ井ヨリ硫黄氣ヲ放ツ。是硫黄氣蒸騰シテ井



